

令和7年度

専攻科

STUDIES & CAMPUS LIFE

呉工業高等専門学校

■非常災害・JR運休時休校措置マニュアル

午前6時30分「1～3」の場合は、各自確認し判断すること
「4」の場合は、さくら連絡網及び本校緊急連絡サイトで連絡します。

1. 暴風（暴風雪）警報が広島市のいずれかの区または呉市のいずれかに発表
2. 大雨警報及び洪水警報が同時に広島市のいずれかの区または呉市のいずれかに発表
3. JR呉線 広島～安芸阿賀間が運休した場合
4. その他大規模災害が発生した場合

自宅待機・午前休校

午前10時さくら連絡網及び
本校緊急連絡サイトにて連絡

警報解除・JR運転再開・災害復旧
午後の授業実施
(速やかに登校する)

終日休校

引き続き警報発表
JRの運休・災害が収
まっていない

緊急連絡サイト



※午前6時30分の休校は、1～3のいずれかに該当するかの確認及び判断は学生各自で行い、4の場合は、呉高专からさくら連絡網及び緊急連絡サイトでお知らせします。

※午前10時の休校は、呉高专からさくら連絡網及び緊急連絡サイトでお知らせします。

I	はじめに	1
1.	教育理念.....	1
2.	学習・教育目標.....	1
3.	教育方針.....	2
4.	教育課程と学士の学位.....	2
5.	3つのポリシー.....	2
II	教育改善システム	4
III	概要	5
1.	専攻科の指導体制.....	5
2.	諸規則.....	5
3.	年間計画.....	5
IV	履修要領	6
1.	修業年限, 授業科目, 単位.....	6
2.	履修手続き, 試験, 成績の評価, 成績評価に関する異議申立, 追認試験.....	7
3.	専攻科修了要件.....	8
4.	特別研究.....	8
5.	インターンシップ.....	8
6.	大学及び他の高等専門学校専攻科での履修.....	9
7.	学位(学士)の取得.....	9
8.	プロジェクトデザイン工学専攻 教育課程表.....	11
9.	プロジェクトデザイン工学専攻 授業科目系統図.....	12
10.	認定科目表.....	13
11.	JABEE 対応教育プログラム「環境都市工学プログラム」の学習・教育目標と修了要件.....	29
V	学生生活	31
1.	納付金等.....	31
2.	奨学金等.....	31
3.	車両通学, 飲酒, 喫煙.....	31
4.	開錠カードキー.....	32
5.	就職・進学.....	32
6.	後援会.....	32
7.	学生会.....	32
8.	連絡事項の伝達方法.....	32
9.	公認(欠席・欠課・遅刻・早退).....	33
10.	資格取得奨励支援.....	33
VI	資料	35
	呉工業高等専門学校学則(専攻科関係抜粋).....	35
	呉工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則.....	38
	呉工業高等専門学校専攻科インターンシップの履修に関する規則.....	45
	専攻科生研究発表旅費支給申請書.....	54
	公認(欠席・欠課・遅刻・早退)許可願.....	55
	専攻科研究発表届.....	56
	教室・教員室配置図.....	57
	教員・メールアドレス一覧.....	60

I はじめに

1. 教育理念

○開発研究とものづくりの現場を結ぶ人材であれ

—ものづくり現場を理解し企画開発力を持った「中核技術者」の育成—

本校は、東洋一の技術集積のあった「呉」にある高等専門学校として、15歳からの5年間または7年間の一貫教育、実験・実習を重視した教育活動により、理論と技能を結びつける技術者を育成することを目指す。

○地域から世界へ、人類の幸福に貢献する人材であれ

—豊かな人間性と確かな技術力を持ち、人類の福祉と平和、国際社会の持続的発展に貢献するために学び続ける人材の育成—

本校は、かつての軍港「呉」にある高等専門学校として、人類の福祉と平和、国際社会の持続的発展へ貢献できる人材を育成することを重視し、変化を恐れない「柔軟性」と「創造性」、確かな「技術力」と「実行力」を持ち、自ら学び続ける人材を育成することを目指す。

2. 学習・教育目標

(SA) 豊かな教養と倫理観により、国際的に行動できる能力の修得

(SB) 工学に関連する応用能力の修得

(SC) 専門分野の課題を解決できる能力の修得

(SD) 社会のニーズを捉え、異分野と協働して課題を解決できる能力の修得

3. 教育方針

急激な少子高齢化の進行，グローバル化によるボーダレス化，新興国の台頭による競争激化など激しい変化が予想される社会で生き残るために必要とされる能力は，あらゆる分野で融合複合化した技術に対応し，創造力と多様性を涵養することが重要です。変化し続けるグローバル環境の中で，技術者自らが課題を見つけ出し，それを解決しようとする精神とノウハウを学修する必要があります。

そこで本専攻では，学修してきた専門分野を深めながら，複合的な素養を身に付け，多様性を涵養し，プロジェクトをデザインできる技術者を育成します。専門工学において本科以上に全般的に深く学ぶことを最小限度とし，継続的に深く探求する，応用研究や特別研究などの学修とともに，他の専門分野を取り込んだ複合的な素養を身につけ，それに加え，人間の幅を広げるべく特に多様性を涵養することに努め，もって課題を発見する能力と創造力を養うことを目指します。

したがって開設単位のうち，身に付けなければならない重要な必修科目は必要最小限となっています。また選択科目は学生たちが必要であると感じる科目を専門分野に依存せず自由に選択できます。このような教育課程によって，本科で身に付けた専門分野と他分野の専門を学修した学生たちが協働しながら，課題発見から企画・設計・製作まで一連のデザイン能力を身に付け，本科において“世界目線”の技術者に孵化した学生を専攻科で本格的に成長させます。

4. 教育課程と学士の学位

プロジェクトデザイン工学専攻では複合融合型専攻として，多くの科目を本科の出身学科に関係なく同じ教室で学び，異分野の技術者との協働を意識した教育を行います。大学改革支援・学位授与機構に認定された特例適用専攻科として「機械工学」，「電気電子工学」，「土木工学」および「建築学」の科目表に従って履修することにより，専攻科修了時に大学改革支援・学位授与機構から学士（工学）の学位が授与されます。

5. 3つのポリシー

※次ページに記載

教育理念、教育目的、学習・教育目標、3つのポリシー（専攻科）

Educational Philosophy, Purpose of education, Learning/Educational goals, 3policies(Advanced Course)

教育理念

Educational philosophy

「開発研究とものづくりの現場を結ぶ人材であれ」
 Be human resources that connect research and development with manufacturing sites.
 ～ものづくりに現場を理解し企画開発力を持った「中核技術者」の育成～
 Foster "core engineers" who understand manufacturing sites and have planning and development skills.
 本校は、東洋一の技術集積のあふれた「国」にある高等専門学校として、15歳からの5年間または7年間の、質教育・実習・実習を重視した教育活動により、理論と技能を結びつくる技術者を育成することを旨とする。

As the foremost school of engineering in East Asia, the National Institute of Technology, Kure College aims to develop providing educational activities with an emphasis on experiments and practical training.

専攻科

教育目的

Purpose of education

学習・教育目標

Learning and Educational Goals

- (SA) 豊かな教養と倫理観により、国際的に行動できる能力の修得
- (SB) 専門分野に関する応用能力の修得

Learn to act on an international level through a comprehensive education and ethics.

Learn to apply engineering skills

ディプロマ・ポリシー

※1. プロジェクト・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの3つは、学習・教育目標とそれぞれ結びついています。

専攻科課程の修了認定方針

学習・教育目標に沿って設けた授業科目を履修し、以下の項目にあげられる知識・能力を身に付け、62単位以上を修得するとともに、大学改革支援、学位授与機構の審査に合格し、学生（工学）を収得する。

専攻科課程で達成する人材像

(SA) 技術者として豊かな教養と倫理観、自らの考えを的確に伝えられるコミュニケーション能力を身に付けている

(SB) 専攻科課程で達成する人材像

・教養科目を修得する

・専門分野に活用できる工学に関する応用能力を身に付けている

(SC) 実務や研究に活用できる専門分野に関する応用能力を身に付けている

・専門科目、応用研究及び特別研究を修得する

・専門科目、応用研究及び特別研究を修得する

とともに、研究成果を学協会等で発表する

(SD) 修得した知識や技術を活用し、実分野と連携して課題を解決できる能力を身に付けている

・プロジェクト・デザイン系科目及びインターンシップを修得する

上記専攻科課程では、「専攻科の学習・教育目標 (SA) 豊かな教養と倫理観により、国際的に行動できる能力の修得、(SB) 工学に関連する応用能力の修得、(SC) 専門分野の課題を解決できる能力の修得、(SD) 社会のニーズを捉え、異分野と協働して課題を解決できる能力の修得」の各目標に対して科目の履修により62単位以上を修得するとともに、大学改革支援、学位授与機構の審査に合格した学生に専攻科修了を認めます。

上記専攻科の修得により、学期に示す専攻科の教育目的「豊かな人間性を持ち、学修してきた専門分野を深めながら、複合的な素養を身に付け、多様性を涵養し、プロジェクトをデザインできる人材を育成する。」を達成します。

具体的な達成する人材像として「(SA) 技術者として豊かな教養と倫理観、自らの考えを的確に伝えられるコミュニケーション力を身に付けている、(SB) 専門分野に活用できる工学に関する応用能力を身に付けている、(SC) 実務や研究に活用できる専門分野に関する応用能力を身に付けている、(SD) 修得した知識や技術を活用し、異分野と協働して課題を解決できる能力を身に付けている。」を想定しています。

Advanced Course

豊かな人間性と国際性をもち、学修してきた専門分野を深めながら、複合的な素養を身に付け、多様性を涵養し、プロジェクトをデザインできる人材を育成する。

Foster human resources rich in humanity and internationality, who can acquire comprehensive knowledge, cultivate diversity, and design projects while conducting in-depth study in their own specialized fields.

(SA) 豊かな教養と倫理観により、国際的に行動できる能力の修得

(SB) 専門分野に関する応用能力の修得

(SC) 専門分野の課題を解決できる能力の修得

(SD) 社会のニーズを捉え、異分野と協働して課題を解決できる能力の修得

Learn to act on an international level through a comprehensive education and ethics.

Learn to understand social needs, and solve issues in collaboration with different fields.

カリキュラム・ポリシー

本科で修得した主専攻となる専門分野の知識や技術を深めるとともに、他の専門分野の知識や技術を取り入れながら、異分野と協働してプロジェクトをデザインするための能力を身に付けていくことが出来るカリキュラムとする。なお、評価はシラバスに示す評価割合に従って行い、60点以上を合格とする。

(SA) 豊かな教養と倫理観により、国際的に行動できる能力を修得するために、人文・社会科学系の教養科目を設ける

(SB) 工学に関連する応用能力を修得するために、専門基礎科目を設ける

(SC) 専門分野の課題を解決できる能力を修得するために、専門科目を設ける

(SD) 社会のニーズを捉え、異分野と協働して課題を解決できる能力を修得するために、総合的なプロジェクトのデザインを履修する科目を設ける

専攻科の教育目的「豊かな教養と国際性をもち、それぞれの専門分野において実務・実習・演習を重視した教育と国際性に関する知識や技術を身に付け、各分野の課題に対処できる人材を育成する。」を実現するため、本科で修得した主専攻となる専門分野の知識や技術を深めるとともに、他の専門分野の知識や技術を取り入れながら、異分野と協働してプロジェクトをデザインするための能力を身に付けることができるカリキュラムとする。

全ての授業は、カリキュラム・ポリシーに基づいて、講義、演習、実験・実習など多様な形態で実施し、その評価については、試験、発表、態度、ポートフォリオなどにより評価する。

各科目の到達目標・授業方法・授業計画・評価方法をWebシラバスにより公開し、学修の成果は学期に定まる成績評価基準により評価する。

各専攻科と高専MCC (モテアコカリキュラム)、学位授与機構専攻の区分と関係

専攻名	系	基礎となる学科	高専MCC	学位授与機構専攻の区分
プロジェクト・デザイン工学専攻	機械系	機械工学科	機械系分野	機械工学
	電気情報系	電気情報工学科	電気・電子系分野	電気電子工学
	環境都市系	環境都市工学科	建設系分野	土木工学
	建築系	建築工学科	建設系分野	建築学

「地域から世界へ、人類の幸福に貢献する人材であれ」
 Be human resources who contribute to human well-being locally and globally.
 ～豊かな人間性と確かな技術力を持ち、人類の福祉と平和、国際社会の持続的発展へ貢献するために学び続ける人材の育成～
 Foster highly skilled human resources with a rich sense of humanity, who continually engage in learning to contribute to the welfare and peace of humankind and the sustainable development of the global community.

本校は、かつての軍艦長官に由来する高等専門学校として、地域の福祉と平和、国際社会の持続的発展へ貢献できる人材を育成することを旨とする。

本学は、かつての軍艦長官に由来する高等専門学校として、地域の福祉と平和、国際社会の持続的発展へ貢献できる人材を育成することを旨とする。

本学は、かつての軍艦長官に由来する高等専門学校として、地域の福祉と平和、国際社会の持続的発展へ貢献できる人材を育成することを旨とする。

本学は、かつての軍艦長官に由来する高等専門学校として、地域の福祉と平和、国際社会の持続的発展へ貢献できる人材を育成することを旨とする。

本学は、かつての軍艦長官に由来する高等専門学校として、地域の福祉と平和、国際社会の持続的発展へ貢献できる人材を育成することを旨とする。

本学は、かつての軍艦長官に由来する高等専門学校として、地域の福祉と平和、国際社会の持続的発展へ貢献できる人材を育成することを旨とする。

本学は、かつての軍艦長官に由来する高等専門学校として、地域の福祉と平和、国際社会の持続的発展へ貢献できる人材を育成することを旨とする。

専攻の教育目的

Purpose of Advanced Course

学修してきた専門分野を深めながら、複合的な素養を身に付け、多様性を涵養し、プロジェクトをデザインできる人材の育成

while conducting in-depth study in their own specialized fields.

アドミSSION・ポリシー

求める学生像

長閑な専攻科は、次のような人々を待っています。

(S1) 技術者として必要な教養とコミュニケーション力を身に付けている人

(S2) 専門分野に関する知識と技術を持ち、ものづくりの技術者を身に付けている人

(S3) 課題を解決するために、主体的かつ積極的に行動できる人

求める人材像の3項目のうち、(S1)と(S2)は学力の3要素(2)と(3)に対応しています。

入学者受け入れの基本方針

(1) 推薦による選抜

入学者の選抜は、在学する高等専門学校長から提出された推薦書、調査書(200点満点)及び面接(専門科目に関する口頭試問を含む)の結果を総合して行います。

(2) 学力による選抜

入学者の選抜は、学力検査(400点満点、調査書(200点満点)及び面接の結果を総合して行います。

(3) 社会人特別選抜

入学者の選抜は、企業から提出された推薦書、調査書及び面接(専門科目に関する口頭試問を含む)の結果を総合して行います。

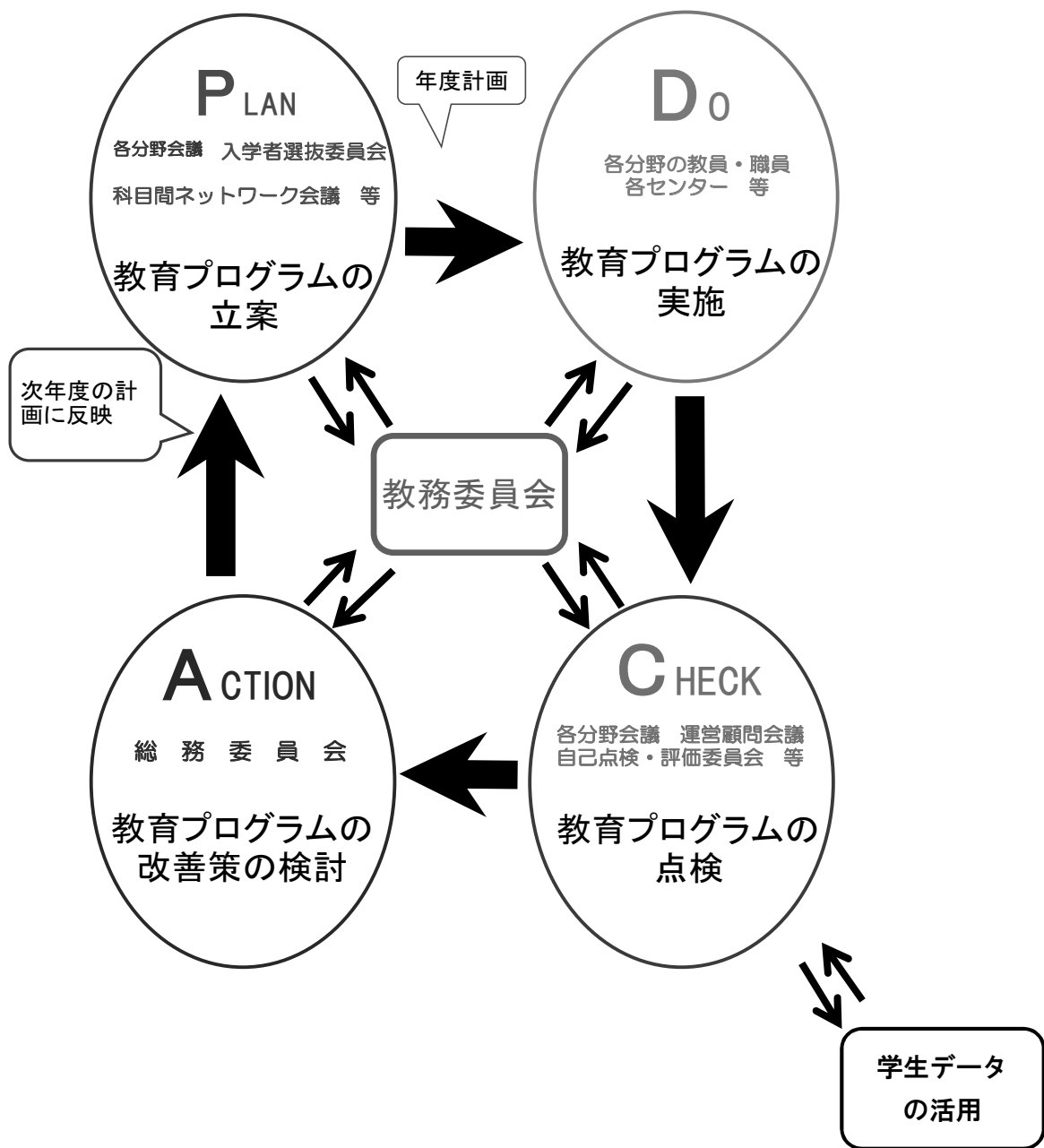
入学者選抜における評価項目

アドミSSION・ポリシー	(S1) 技術者として必要な教養とコミュニケーション力を身に付けている人	(S2) 専門分野に関する知識と技術を持ち、ものづくりの技術者を身に付けている人	(S3) 課題を解決するために、主体的かつ積極的に行動できる人
学力の3要素	(1) 知識・技能	(1) 知識・技能	(2) 思考力・判断力・表現力等の能力
推薦による選抜	(1) 主体性を発揮して学ぶ意欲	調査書、面接	面接
学力による選抜	学力検査	学力検査	面接
社会人特別選抜	面接	調査書	面接

II 教育改善システム

本校は、教務委員会を中心として常に教育改善に取り組んでいます。改善には、学生の意見を反映させるため、「学生による授業評価アンケート」等が行われます。

教育改善システム図



Ⅲ 概要

1. 専攻科の指導体制

校長のもと専攻科長，専攻科長補が専攻科の運営を担当します。

専攻科長，専攻科長補は，学生から専攻科全般について相談を受け付けます。

また，専攻科入学時に特別（応用）研究指導教員を決定し，専攻科長補と協力して専攻科生の指導にあたります。

2. 諸規則

呉工業高等専門学校学則に基づきます。大半は本科の規定を準用していますが，本科生とは異なる規則もあります。本科生と比べて自由度が高くなりますが，専攻科生としての自覚をもって行動してください。

3. 年間計画

令和7年度の主な行事等は下表のとおりです。

詳しい年間行事予定表は，別に配布しますが，全教員が参加する本科の行事（高専祭，体育祭等）がある日は，専攻科の講義も休講とするため，専攻科の学生も参加することが可能です。

2年間の主な行事等

	月	教務関連の行事	その他の行事
1 年 生	4月	前期授業開始 PD 工学総合ゼミ I（集中講義）	入学式, 新入生オリエンテーション 高専祭 球技大会 駅伝大会
	5月	インターンシップ開始（7月まで）	
	8月	インターンシップ報告会 前期授業終了, 夏季休業	
	9月	後期授業開始	
	11月		
	12月	冬季休業	
	1月		
	2月	学年末試験 応用研究発表会 後期授業終了, 学年末休業	

2 年 生	4月	前期授業開始 学位授与申請説明会	2年生ガイダンス
	5月	学位授与申請（履修計画書）	体育祭
	6月	英語統一テスト	
	7月	前期末試験	
	8月	前期授業終了，夏季休業	
	9月	後期授業開始	
	11月		高専祭 球技大会
	12月	冬季休業	
	1月	特別研究発表会	駅伝大会
	2月	学位授与申請（成果の要旨） 学年末試験，後期授業終了	
	3月		修了式（3月18日）

IV 履修要領

授業科目の履修等については、「専攻科の授業科目の履修等に関する規則」＜資料＞を参照してください。

1. 修業年限，授業科目，単位

(1) 修業年限

専攻科の修業年限は2年で，4年を超えて在学することはできません。

(2) 長期履修学生制度

職業を有している者等で，特別な理由により，専攻科の通常の修業年限2年を超えて一定の期間（4年の範囲内）にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する者は，校長の許可によりその計画による履修が認められます。

長期履修学生として認められた場合の授業料の年額は，通常の修業年限に支払うべき授業料総額を，あらかじめ認められた修業年限で除した額となります。

(3) 学修時間と単位

専攻科における授業科目の1単位の学修時間は，次のとおりです。

なお，90分授業を2単位時間とします。

講義：15単位時間の授業＋30単位時間の自学・自習

演習：30単位時間の授業＋15単位時間の自学・自習

実験・実習：30単位時間の授業＋15単位時間の自学・自習

(4) 授業科目の履修

「8. プロジェクトデザイン工学専攻 教育課程表」及び「9. プロジェクトデザイン工学専攻 授業科目系統図」を参考にして履修してください。

特例による学位授与申請を行うためには、認定科目表に掲げる授業科目の単位を修得する必要があります。認定科目表には、本科で修得した単位も含まれますので、「10. 認定科目表」を確認してください。

2. 履修手続き, 試験, 成績の評価, 成績評価に関する異議申立, 追認試験

(1) 受講科目履修届の提出

「専攻科の授業科目の履修等に関する規則」に基づき、所定の様式に記入し、各学期の授業開始日から1週間以内に提出しなければなりません。

(2) 定期試験

学期末の約1週間前に期末試験を実施します。

(3) 追試験

やむを得ない理由(急病で当日朝8時50分までに担当教員等に連絡があったもの、忌引等)で定期試験の受験が出来なかった者で、願い出が提出された場合に実施されます。

該当する場合は、追試験受験願に必要な書類(診断書等)を添付し、教務係に提出してください。

(4) 成績評価

出席日数2/3以上のものに対して評価を行います。

評点と評価及び単位認定の判定は、次のとおりです。

なお、特別研究は、「優・良・可・不可」、インターンシップは、「合格・不合格」で評定します。

	評点	100~80	79~70	69~60	59以下
評価	評語	優	良	可	不可
	判定	合格			不合格

(5) 成績評価に関する異議申立

成績評価において、自らの成績評価に疑問を抱いた場合、まずは授業担当教員に問い合わせ、教員から説明を受けてください。

説明を受けても十分に納得できない場合には、専攻科長または専攻科長補に相談の上、学生課教務係に申し出ることができます。

(6) 単位追認試験

成績評価において不可となった講義を主とする科目及び講義と演習を合わせた科目については、科目担当教員が認めた場合には追認試験を受けることができます。実施時期等については、科目担当教員に確認してください。

3. 専攻科修了要件

専攻科において、下表のとおり単位を修得することが必要です。

(令和6年度以降入学生適用)

区 分		プロジェクトデザイン工学専攻	
		開設単位数	修得単位数
履 修 科 目	教 養 科 目 必 修	13	13
	専 門 基 礎 科 目 必 修 選 択	5 14	5 6 以上
	専 門 科 目 必 修 選 択	36 13	36 2 以上
合 計		81	62 以上

4. 特別研究

本専攻科では、特別研究を最も重要に考えています。学士課程教育に相当する4年間（本科4～5学年，専攻科1～2学年）の学修を総括するための「学修総まとめ科目」として、知識の総合化を図り、問題解決に向けて広い視野から理論的・実践的に考究する能力と創造性を育成します。

概要は、以下のとおりです。

- ・研究は指導教員のもとで学生が主体的に取り組むものであり、研究テーマ、研究方法は指導教員と相談のうえ、決定する。
- ・研究成果は、関連学会及び専攻科論文集等で発表することを義務づけ、プレゼンテーション能力の向上を図る。

また、専攻科在学中に学会・協会の講演会における発表経験が必要です。研究発表届を在学中に最低1件は提出してください。

5. インターンシップ

(1) 目的

企業又は研究機関等における就業体験を通じて実践的技術感覚を体得させるとともに、就業体験で得た成果を専攻科特別研究等の学修に生かすことを目的とします。

(2) 概要

履修にあたっては、「専攻科インターンシップの履修に関する規則」に沿って実施します。

期 間：1年生 5月初旬～7月中旬

実 習 先：本校が推薦する企業，自治体，研究機関等（海外でも可）

※専攻科長補又は応用研究指導教員と相談のうえ決定

単 位 数：10単位

履修実時間数：360 時間以上

※報告会及び報告書の作成等を含む最大 8 時間を含めることができる
評 価：履修本人及びインターンシップ受入先担当者の報告書並びに報告会の
内容によって行う

報 告 会：8 月頃に実施

報 告 書：インターンシップ報告書（デジタル版）を作成する

6. 大学及び他の高等専門学校専攻科での履修

教育ネットワーク中国の単位互換制度を利用し、他大学の授業を履修することができます。ただし、修了に必要な単位数には含まれません。

7. 学位（学士）の取得

本校専攻科は、独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構の特例適用認定を受けているため、平成 29 年度以降入学の専攻科生は、認定科目表に掲げる授業科目の単位を修得し、学修総まとめ科目の履修計画書と成果の要旨を提出すれば、原則申請者全員に学位が授与されます。

ただし、本校の学科（本科）において留年し、本校専攻科に入学した者などは、入学後に特例による学位授与申請が可能であるかについて、大学改革支援・学位授与機構に確認する必要があります。特例による学位授与申請の要件を満たさないと判断された場合には、通例による学位授与申請を行い、同機構が実施する学修成果レポート審査及び小論文試験に合格する必要があります。

【特例の適用による学位授与申請】

（1）要件

①単位の修得

専攻科で修得した単位：全ての科目〔 ≥ 62 単位〕

専攻科で修得した単位：専門科目（学修総まとめ科目に該当する授業科目を除く）
＋関連科目〔 ≥ 40 単位〕

専攻科で修得した単位：専門科目（学修総まとめ科目に該当する授業科目を含む）
〔 ≥ 31 単位〕

本科及び専攻科で修得した単位：専門科目（学修総まとめ科目に該当する授業科目を含む）
＋関連科目〔 ≥ 62 単位〕

本科及び専攻科で修得した単位：専門科目以外〔 ≥ 24 単位〕

本科及び専攻科で修得した単位：外国語の単位〔必ず含む〕

②学修総まとめ科目（特別研究）の「履修計画書」と「成果の要旨」の作成

履修計画書：「学修総まとめ科目」で自ら取り組んでいるテーマ、そのテーマの着想に至った背景、目的、手法・手段、内容（計画）・過程を、テーマの学修・探究を進める上で基盤となる他の授業科目の既履修

状況と関連づけて、A4判用紙2ページに2,400～3,000字程度で記述。

成果の要旨：「学修総まとめ科目」で得られた結果と考察・将来展望を、A4判用紙3ページに3,600～4,500字程度で記述。

(2) 学内説明会

履修計画書の提出時（4月）と成果の要旨提出時（12月）に実施します。

8. プロジェクトデザイン工学専攻 教育課程表

(令和6年度以降入学生適用)

授 業 科 目		単位数	履修学年		備 考	
			1 学年	2 学年		
教養科目	必 修	日本語表現法	2	2		
		科学英語表現法Ⅰ	1	1		
		科学英語表現法Ⅱ	2	2		
		科学総合英語	2		2	
		グローバル倫理	2	2		
		経営マネジメント	2	2		
		プロジェクトマネジメント	2		2	
		履 修 単 位 数 計		13		
専門基礎科目	必 修	数学応用工学Ⅰ	2	2		
		プロジェクトデザイン工学総合ゼミⅠ	2	2	演習	
		プロジェクトデザイン工学総合ゼミⅡ	1		1	演習
		履 修 単 位 数 計		5		
	選 択	数学応用工学Ⅱ	2		2	
		物理応用工学	2	2		
		生命科学	2		2	
		化学応用工学	2	2		
		数値計算法	2		2	
		資源循環工学	2		2	
		量子力学	2		2	
		開 設 単 位 数 計		14		
	履 修 単 位 数 計		6 以上			
	専門科目	必 修	CAD/CAM・CAE	2		2
高度専門特別講義Ⅰ(科目名※)			4	4		2単位×2
高度専門特別講義Ⅱ(科目名※※)			4		4	2単位×2
インターンシップ			10	10		実習
応用研究			6	6		演習
特別研究			10		10	演習
履 修 単 位 数 計				36		
選 択		福祉工学	2		2	
		再生可能エネルギー工学	2		2	
		工業デザイン論	2		2	
		環境人間工学	2		2	
		建築設計演習	2	2		演習
		プロジェクトデザイン工学演習Ⅰ	2		2	演習
		プロジェクトデザイン工学演習Ⅱ	1		1	演習
開 設 単 位 数 計		13				
履 修 単 位 数 計		2 以上				
開 設 単 位 数 計		81	39	42		
履 修 単 位 数 合 計			62 以上			

※高度専門特別講義Ⅰの科目名

機械工学分野：数値流体工学，弾性設計学，医用工学，メカトロニクス特論

電気情報工学分野：電磁波システム工学，アドバンスドコントロール，ソフトコンピューティング，
インフォメーションテクノロジー

環境都市工学分野：応用水理学，環境地盤力学，テラメカニクス

建築学分野：都市・地域計画，各種コンクリート構造，近代デザイン史

※※高度専門特別講義Ⅱの科目名

機械工学分野：振動工学，機械要素，システム制御

電気情報工学分野：マイクロエレクトロニクス，モーターエレクトロニクス，材料物性学，バイオメトリクス

環境都市工学分野：建設材料論，応用解析法

建築学分野：耐震構造，人間温熱生理，環境デザイン

9. プロジェクトデザイン工学専攻 授業科目系統図

(令和6年度以降入学生適用)

学習・教育目標	専攻科1年		専攻科2年	
	前期	後期	前期	後期
(SA)	科学英語表現法 I	科学英語表現法 II グローバル倫理 経営マネジメント 日本語表現法	科学総合英語	
(SB)		数学応用工学 I 物理応用工学 化学応用工学	数学応用工学 II	生命科学 数値計算法 資源循環工学 量子力学
(SC)	建築設計演習	高度専門特別講義 I 数値流体工学 弾性設計学 医用工学 メカトロニクス特論 高度専門特別講義 I 電磁波システム工学 アドバンスコントロール ソフトコンピューティング インフォメーションテクノロジ 高度専門特別講義 I 応用水理学 環境地盤力学 テラメカニクス 高度専門特別講義 I 都市・地域計画 各種コンクリート構造 近代デザイン史 応用研究	CAD/CAM・CAE 再生可能エネルギー工学 高度専門特別講義 II 振動工学 機械要素 システム制御 高度専門特別講義 II マイクロエレクトロニクス モーターエレクトロニクス 材料物性学 バイオメトリクス 高度専門特別講義 II 建設材料論 応用解析法 高度専門特別講義 II 耐震構造 人間温熱生理 環境デザイン 特別研究	福祉工学 工業デザイン論 環境人間工学
(SD)	インターンシップ プロジェクトデザイン工学総合ゼミ I		プロジェクトマネジメント プロジェクトデザイン 工学総合ゼミ II プロジェクトデザイン 工学演習 I	プロジェクトデザイン 工学演習 II

必修科目

選択科目

10. 認定科目表

【様式第3号】

科目表

学校名 呉工業高等専門学校 専攻科/専攻名 プロシエクトデザイン工学専攻/機械工学科

専攻分野の名称 工学

専攻の区分 機械工学

適用年度 令和6年度入学生適用

Table with columns: 科目区分, 単位修得の要件, 学校における区分, 開設科目, 授業科目名, 必・選, 単位数, 履修年次, シラバス番号, 概要, 新規有無. Contains detailed course information including titles like '機械設計基礎論 I', '応用数学', '特別研究', and '専攻外科目'.

【単位修得の要件】 認定専攻科で修得した単位：全ての科目 [2年課程：≧62単位，1年課程：≧31単位] + 関連科目 [2年課程：≧40単位，1年課程：≧20単位] ... (注) 授業科目に科目番号が付されている場合は記入すること。(科目番号が付されていない場合は記入不要。)

【様式第3号】

科 目 表

校 名	名 興工業高等専門学校
専攻科 / 学科	名 興工業高等専門学校工学専攻 / 電気情報工学科
専攻分野の名称	工学
専攻の区分	電気電子工学
適用年度	令和6年度入学生適用

科目区分	単位修得の要件による分類				開設科目	単位数	履修年次	備考	新規 有無	授業内容 変更有無
	①	②	③	④						
専門科目	○	○	○	○	電気数学Ⅰ	1	電113	A 電気電子工学の基礎となる科目		
	○	○	○	○	電気回路Ⅰ	1	電114	A 電気電子工学の基礎となる科目		
	○	○	○	○	電気回路Ⅱ	1	電115	A 電気電子工学の基礎となる科目		
	○	○	○	○	電気電子計測Ⅰ	1	電117	A 電気電子工学の基礎となる科目		
	○	○	○	○	情報処理Ⅱ	1	電119	A 電気電子工学の基礎となる科目		○
	○	○	○	○	情報処理Ⅲ	1	電121	A 電気電子工学の基礎となる科目		
	○	○	○	○	電気情報工学実験Ⅰ	3	電122	B 電気電子工学に関する実験・実習科目		○
	○	○	○	○	電気数学Ⅱ	1	電149	A 電気電子工学の基礎となる科目		
	○	○	○	○	電気回路Ⅲ	1	電154	A 電気電子工学の基礎となる科目		
	○	○	○	○	電気回路Ⅳ	1	電156	A 電気電子工学の基礎となる科目		
	○	○	○	○	電気電子材料	1	電158	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	電気工学Ⅰ	1	電160	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	電気磁気学Ⅰ	1	電162	A 電気電子工学の基礎となる科目		
	○	○	○	○	電気磁気学Ⅱ	1	電163	A 電気電子工学の基礎となる科目		
	○	○	○	○	電気電子計測Ⅱ	1	電164	A 電気電子工学の基礎となる科目		
	○	○	○	○	情報処理Ⅳ	1	電166	A 電気電子工学の基礎となる科目		
	○	○	○	○	情報処理Ⅴ	1	電167	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	シナジー工学制御	1	電169	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	電気情報工学実験Ⅱ	4	電170	B 電気電子工学に関する実験・実習科目		
	○	○	○	○	電気回路Ⅴ	1	電188	A 電気電子工学の基礎となる科目		
	○	○	○	○	電気回路Ⅵ	1	電192	A 電気電子工学の基礎となる科目		
	○	○	○	○	電気回路Ⅶ	2	電194	A 電気電子工学の基礎となる科目		
	○	○	○	○	電気回路Ⅷ	2	電196	A 電気電子工学の基礎となる科目		
	○	○	○	○	電気工学Ⅱ	1	電198	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	電気磁気学Ⅲ	1	電200	A 電気電子工学の基礎となる科目		
	○	○	○	○	電気磁気学Ⅳ	1	電202	A 電気電子工学の基礎となる科目		
	○	○	○	○	制御工学Ⅰ	2	電204	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	制御工学Ⅱ	2	電206	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	エネルギー制御工学実験	4	電208	B 電気電子工学に関する実験・実習科目		
	○	○	○	○	電気電子工学実験	4	電210	B 電気電子工学に関する実験・実習科目		
	○	○	○	○	エネルギー変換工学Ⅰ	2	電212	A 電気工学に関する科目		
	○	○	○	○	通信工学Ⅰ	2	電214	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	情報理論	1	電216	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	IC設計工学	10	電217	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	卒業研究	2	電233	B 電気電子工学に関する実験・実習科目		
	○	○	○	○	エネルギー変換工学Ⅱ	2	電236	A 電気工学に関する科目		
	○	○	○	○	エネルギーネットワーク工学Ⅰ	1	電237	A 電気工学に関する科目		
	○	○	○	○	エネルギーネットワーク工学Ⅱ	2	電239	A 電気工学に関する科目		
	○	○	○	○	エネルギー発生工学Ⅰ	1	電241	A 電気工学に関する科目		
	○	○	○	○	エネルギー発生工学Ⅱ	1	電242	A 電気工学に関する科目		
	○	○	○	○	通信工学Ⅱ	2	電243	A 電気工学に関する科目		
	○	○	○	○	電磁界理論	2	電244	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	アルゴリズム	2	電245	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	信号処理	2	電247	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	情報ネットワーク	1	電249	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	応用電子回路	2	電250	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	プロジェクトデザイン工学総合ゼミⅠ	2	電252	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	高度専門特別講義Ⅰ(電磁波システム工学)	2	電253	B 電気電子工学に関する実験・実習科目		
	○	○	○	○	高度専門特別講義Ⅱ(マイクロエレクトロニクス)	2	電32	B 電気電子工学に関する実験・実習科目		
	○	○	○	○	高度専門特別講義Ⅲ(ソフトウェアエンジニアリング)	2	電33	B 電気電子工学に関する実験・実習科目		
	○	○	○	○	高度専門特別講義Ⅳ(インフォメーションテクノロジー)	2	電35	B 電気電子工学に関する実験・実習科目		
	○	○	○	○	応用研究	6	電37	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	CAD/CAM・CAE	2	電78	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	高度専門特別講義Ⅴ(マイクロエレクトロニクス)	2	電88	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	高度専門特別講義Ⅵ(材料物性学)	2	電90	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	高度専門特別講義Ⅶ(バイオメトリクス)	2	電92	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	再生可能エネルギー工学	2	電94	A 電気電子工学に関する科目		
	○	○	○	○	プロジェクトデザイン工学演習Ⅰ	2	電73	B 電気電子工学に関する実験・実習科目		
	○	○	○	○	プロジェクトデザイン工学演習Ⅱ	1	電80	B 電気電子工学に関する実験・実習科目		
単位計	42	42	127	0	工学総合演習Ⅰ	2	電184	関連 工学及び周辺技術等に関する科目		
					応用数学	2	電186	関連 工学の基礎となる科目		
					技術者倫理	2	電223	関連 工学及び周辺技術等に関する科目		
					工学総合演習Ⅱ	2	電231	関連 工学及び周辺技術等に関する科目		
					経営マネジメント	2	電12	関連 工学及び周辺技術等に関する科目		
					数学応用Ⅰ	2	電39	関連 工学の基礎となる科目		
					物理応用Ⅰ	2	電49	関連 工学の基礎となる科目		
					化学応用Ⅰ	2	電52	関連 工学の基礎となる科目		
					数学応用Ⅱ	2	電55	関連 工学及び周辺技術等に関する科目		
					生体工学	2	電95	関連 工学の基礎となる科目		
					数値計算法	2	電105	関連 工学の基礎となる科目		
					重畳工学	2	電97	関連 工学及び周辺技術等に関する科目		
					重畳工学	2	電107	関連 工学及び周辺技術等に関する科目		
					工業デザイン論	2	電71	関連 工学及び周辺技術等に関する科目		
					環境人間工学	2	電75	関連 工学及び周辺技術等に関する科目		
単位計	26	26	0	34	特別研究	10	電84	B 電気電子工学に関する実験・実習科目		
学修総まとめ	0	0	0	0	日本文学	2	電173	専攻外科目		○
					英語Ⅲ	2	電175	専攻外科目		
					英語Ⅳ	2	電177	専攻外科目		
					体育Ⅳ	1	電180	専攻外科目		○
					物理学	2	電181	専攻外科目		
					インキュベーション・ワークショップⅣ	4	電219	専攻外科目		○
					地域実践演習	1	電225	専攻外科目		
					英語Ⅴ	2	電227	専攻外科目		○
					第二外国語Ⅰ	2	電230	専攻外科目		
					第二外国語Ⅱ	2	電233	専攻外科目		
					日本語学	2	電14	専攻外科目		
					科学英語表現Ⅰ	1	電05	専攻外科目		
					科学英語表現Ⅱ	1	電07	専攻外科目		
					フロンティア論	2	電10	専攻外科目		
					建築設計演習	2	電16	専攻外科目		
					科学総合英語	2	電58	専攻外科目		
単位計	11	0	0	34						

【単位修得の要件】

- ① 認定専攻科で修得した単位：全ての科目〔2年課程：≧62単位、1年課程：≧31単位〕
 ② 認定専攻科で修得した単位：専門科目〔学修総まとめ科目に該当する授業科目を除く〕＋関連科目〔2年課程：≧40単位、1年課程：≧20単位〕
 ③ 認定専攻科で修得した単位：専門科目〔学修総まとめ科目に該当する授業科目を含む〕
 ④ 本科及び認定専攻科で修得した単位：専門科目以外〔≧24単位〕
 ⑤ 本科及び認定専攻科で修得した単位：専門科目以外〔≧24単位〕
 ⑥ 本科及び認定専攻科で修得した単位：外国語の単位〔必ず含む〕

(注) 授業科目に科目番号が付されている場合は記入すること。(科目番号が付されていない場合は記入不要。)

【様式第3号】

学校名 岡山工業高等専門学校 専攻科/学科名 プロジェクトデザイン工学専攻/環境都市工学科
専攻分野の名称 工学
専攻の区分 土木工学
適用年度 令和6年度入学生適用

科目表

Table with columns: 科目区分, 単位修得の要件による分類, 学校における区分, 開設科目, 授業科目名, 必・選, 単位数, 限修年次, クラウド, 概要, 新規, 授業内容変更有無. Rows include various engineering subjects like Measurement, CAD, Construction, etc.

※記入欄が不足する場合は、適宜追加してください。
【単位修得の要件】
① 認定専攻科で修得した単位：全ての科目〔2年課程：≧62単位、1年課程：≧31単位〕
② 認定専攻科で修得した単位：専攻科（学修総まとめ科目）に該当する授業科目を除く
③ 認定専攻科で修得した単位：専攻科（学修総まとめ科目）に該当する授業科目を除く
④ 本学及び認定専攻科で修得した単位：専攻科（学修総まとめ科目）に該当する授業科目を除く
⑤ 本学及び認定専攻科で修得した単位：専攻科（学修総まとめ科目）に該当する授業科目を除く
⑥ 本学及び認定専攻科で修得した単位：専攻科（学修総まとめ科目）に該当する授業科目を除く
（注） 授業科目に科目番号が付されている場合は記入すること。（科目番号が付されていない場合は記入不要。）

【様式第3号】

科目表

学校名 県工業高等専門学校 専攻科/学科名 プロシエクトデザイン工学専攻/建築学科
専攻分野の名称 工学
専攻の区分 建築学
適用年度 令和6年度入学生適用

Table with columns: 科目区分, 単位修得の要件, 学校における区分, 開設科目, 授業科目名, 必・選, 単位数, 履修年次, シラバス, 概要, 新規. Rows include 専門科目, 単位計, 学修総まとめ科目, 専攻外科目.

【単位修得の要件】
① 単位修得の要件: 全ての科目(2年課程: ≧62単位, 1年課程: ≧31単位)
② 認定専攻科で修得した単位: 学修総まとめ科目に該当する授業科目を除く(1年課程: ≧16単位)
③ 認定専攻科で修得した単位: 専門科目(学修総まとめ科目に該当する授業科目を含む)(2年課程: ≧31単位, 1年課程: ≧16単位)
④ 本科及び認定専攻科で修得した単位: 専門科目(学修総まとめ科目に該当する授業科目を含む) + 関連科目(≧62単位)
⑤ 本科及び認定専攻科で修得した単位: 専門科目以外(≧24単位)
⑥ 本科及び認定専攻科で修得した単位: 外国語の単位(必ず含む)

(注) 授業科目に科目番号が付されている場合は記入すること。(科目番号が付されていない場合は記入不要。)

【様式第3号】

科目表

学校	名古屋工業高等専門学校
専攻科	専攻科 / 学 科 名 プロシエクトデザイン工学専攻 / 機械工学科
専攻分野	機械工学
専攻の区分	機械工学
適用年度	令和7年度入学生適用

科目区分	単位修得の要件による分類						単位数	履修年次	シラバス 科目番号	概要	新規 有無	授業内容 変更有無
	①	②	③	④	⑤	⑥						
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機60	設計工学・機構要素・トライブロジーンに関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機61	機械工学に関する実験・実習科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機63	機械工学に関する実験・実習科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機109	A 知能機械学・機構システムに関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機111	A 知能機械学・機構システムに関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機113	A 機械材料・材料力学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機115	A 設計工学・機構要素・トライブロジーンに関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機117	A 機械力学・制御に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機118	B 機械工学に関する実験・実習科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機120	B 機械工学に関する実験・実習科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機147	A 機械材料・材料力学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機149	A 機械材料・材料力学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機151	A 機械工作・生産工学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機153	A 機械工作・生産工学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機155	A 機械材料・材料力学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機157	A 設計工学・機構要素・トライブロジーンに関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機159	A 機械工作・生産工学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機161	A 知能機械学・機構システムに関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機163	A 知能機械学・機構システムに関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	4	機165	B 機械工学に関する実験・実習科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機167	B 機械工学に関する実験・実習科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機180	B 機械工学に関する実験・実習科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機184	A 知能機械学・機構システムに関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機186	A 機械材料・材料力学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機188	A 機械材料・材料力学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機190	A 機械材料・材料力学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機192	A 熱工学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機194	A 熱工学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機196	A 流体工学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機198	A 流体工学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機200	A 設計工学・機構要素・トライブロジーンに関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機206	A 機械力学・制御に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機213	B 機械工学に関する実験・実習科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	4	機215	B 機械工学に関する実験・実習科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機228	B 機械工学に関する実験・実習科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機231	B 機械力学・制御に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機234	A 機械力学・制御に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機236	A 機械工作・生産工学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機238	A 熱工学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機240	A 熱工学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機241	A 流体工学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機242	A 流体工学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機244	A 流体工学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機246	A 流体工学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機248	A 機械材料・材料力学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機250	A 機械材料・材料力学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機251	A 機械材料・材料力学に関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機253	A 設計工学・機構要素・トライブロジーンに関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機255	A 知能機械学・機構システムに関する科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	専1	専231	B 機械工学に関する実験・実習科目		
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	専1	専43	A 機械材料・材料力学に関する科目		
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	専1	専45	A 知能機械学・機構システムに関する科目		
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	専1	専47	A 知能機械学・機構システムに関する科目		
専門科目	0	0	0	0	0	0	6	専1	専53	B 機械工学に関する実験・実習科目		
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	専2	専69	B 機械工学に関する実験・実習科目		
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	専2	専78	A 機械工作・生産工学に関する科目		
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	専2	専99	A 機械力学・制御に関する科目		
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	専2	専101	A 設計工学・機構要素・トライブロジーンに関する科目		
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	専2	専103	A 知能機械学・機構システムに関する科目		
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	専2	専73	A 熱工学に関する科目		
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	専2	専80	B 機械工学に関する実験・実習科目		
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	専2	専80	B 機械工学に関する実験・実習科目		
単位計	42	42	42	133	0	0						
関連科目												
専門科目	0	0	0	0	0	0	1	機146	関連 工学の基礎となる科目			
専門科目	0	0	0	0	0	0	2	機182	関連 工学の基礎となる科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	1	機217	関連 工学及び周辺技術等に関する科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	機220	関連 工学の基礎となる科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	専12	関連 工学及び周辺技術等に関する科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	専39	関連 工学の基礎となる科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	専49	関連 工学の基礎となる科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	専52	関連 工学の基礎となる科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	専55	関連 工学及び周辺技術等に関する科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	専95	関連 工学の基礎となる科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	専105	関連 工学及び周辺技術等に関する科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	専97	関連 工学の基礎となる科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	専107	関連 工学の基礎となる科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	専75	関連 工学の基礎となる科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	専76	関連 工学及び周辺技術等に関する科目			
単位計	24	24	0	30	30	0						
学修総まとめ 科目	0	0	0	0	0	0						
単位計	10	0	10	10	0	0						
専攻外科目												
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	機169	専攻外科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	機171	専攻外科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	1	機173	専攻外科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	機175	専攻外科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	機176	専攻外科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	機177	専攻外科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	機202	専攻外科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	1	機222	専攻外科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	機224	専攻外科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	機226	専攻外科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	機227	専攻外科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	機227	専攻外科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	機227	専攻外科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	1	機205	専攻外科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	機407	専攻外科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	機10	専攻外科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	機16	専攻外科目			
一般科目	0	0	0	0	0	0	2	機58	専攻外科目			
単位計	11	0	0	0	31	15						

【単位修得の要件】

- ① 認定専攻科で修得した単位：全ての科目 [2年課程：≧62単位 1年課程：≧31単位]
- ② 認定専攻科で修得した単位：専門科目 (学修総まとめ科目を除く) + 関連科目 [2年課程：≧40単位 1年課程：≧20単位]
- ③ 認定専攻科で修得した単位：専門科目 (学修総まとめ科目を除く) + 関連科目 (学修総まとめ科目を除く) [2年課程：≧31単位 1年課程：≧16単位]
- ④ 本学及び認定専攻科で修得した単位：専門科目 (学修総まとめ科目を除く) + 関連科目 (学修総まとめ科目を除く) [2年課程：≧62単位]
- ⑤ 本学及び認定専攻科で修得した単位：専門科目 (学修総まとめ科目を除く) + 関連科目 (学修総まとめ科目を除く) [2年課程：≧62単位]
- ⑥ 本学及び認定専攻科で修得した単位：外国語の単位 (必ず含む)

(注) 授業科目に科目番号が付されている場合は記入すること。(科目番号が付されていない場合は記入不要。)

【様式第3号】

科目表

学校名 名 工業高等専門学校 専攻科/学科名 プロジェクトデザイン工学専攻/環境都市工学科

専攻分野の名称 工学 専攻の区分 土木工学 週用年 1年度入学生適用

Table with columns for course details: 科目区分, 学校における区分, 科目番号(注), 授業科目名, 開設科目, 単位数, 履修年次, シラバス, 概要, 新規有無. Rows include 測量I, 測量II, 実験実習I, etc.

単位修得の要件: ① 認定専攻科で修得した単位: 2年課程: ≥62単位 1年課程: ≥31単位 ② 認定専攻科で修得した単位: 2年課程: ≥40単位 1年課程: ≥20単位 ③ 認定専攻科で修得した単位: 2年課程: ≥31単位 1年課程: ≥16単位 ④ 本科及び認定専攻科で修得した単位: 専門科目(学修総まとめ科目)に該当する授業科目を含む) + 関連科目(≥62単位) ⑤ 本科及び認定専攻科で修得した単位: 専門科目以外 (≥24単位) ⑥ 本科及び認定専攻科で修得した単位: 外国語の単位 [必ず含む]

(注) 授業科目に科目番号が付されている場合は記入すること。(科目番号が付されていない場合は記入不要。)

1 1. JABEE 対応教育プログラム「環境都市工学プログラム」の学習・教育目標と修了要件

(1) 学習・教育目標

■ 豊かな教養と国際性

- (A) 自然現象を理論的に取り扱えるように、数学・自然科学・情報技術を身につける。

工学の基礎となる数学、自然科学、情報技術に関する基礎的な知識を修得する。情報技術に関しては、情報化社会において技術者に必須とされる情報リテラシーを修得し、情報技術を活用しながら専門知識や技術を応用・発展させる能力を育成する。

- (B) 国際的な視野と幅広い教養および技術者としての倫理観を身につける。

異文化を理解し、総合的に物事を判断できる幅広い教養と、工学に携わる者として求められる倫理観を身につける。また、外国語の学習を通して、国外の書物の講読、国外の技術者とのコミュニケーションが可能な語学力を身につけることを目的とする。

- (C) 事業内容や意見等を正確に相手に伝えることができる表現力、プレゼンテーション能力を身につける。

自らの考えを的確な文書や効果的な図面などを通して他者に伝達することができる表現力、プレゼンテーション能力を育成する。授業におけるレポート・設計書の作成、卒業研究・特別研究論文の作成を通して、論理的な記述・表現が出来るようになることを目的とする。

■ 建設・環境分野の基礎知識・能力

- (D) 事業の計画、設計、施工および維持にいたるまでの一貫した作業を責任を持ってやり遂げられる素養を身につける。

社会基盤整備に関わる事業の計画、調査、設計、施工、維持管理に関わる専門分野の内容を習得し、責任を持って事業をやり遂げる能力を身につける。

- (E) 環境保全のための分析、評価能力を身につける。

環境の恵沢の享受と継承、健康で文化的な生活の確保と向上に寄与する環境保全に関する基礎知識・能力を修得する。

- (F) 環境に配慮した社会基盤整備を行う能力を身につける。

環境に配慮し安全で快適な社会を形成するための社会基盤施設の整備に必要な、構造物の材料特性や力学特性に関する基礎的知識・能力を修得する。

■ 建設・環境分野の創造力・応用力

- (G) 専門分野の知識を習得し、豊かな創造力を持って、問題に立ち向かえる能力を身につける。

建設・環境分野の基礎的専門知識を基にして卒業研究および特別研究に取り組むことにより、未知なるものへのチャレンジ精神と創造力および多様な問題に対する解決能力を身につける。

- (H) 国家資格にも対応する実践的な技術を身につける。

実験実習、設計製図、現場見学を通して、建設・環境分野の技術を体得するとともに、その技術と理論とを対応させて理解する。また、建設・環境分野に関する国家資格にも対応した実践的能力を身につける。

(2) 修了要件

1. 本校の環境都市工学科又はこれと同等の学科を卒業していること。ただし、他の高等教育機関から本校専攻科に入学した者については、本校環境都市工学科の卒業に相当すると認定されること。
2. 専攻科において 62 単位以上、本科 4, 5 年を含めて 124 単位以上取得していること。
3. 下記、別表に定める単位取得要件を満たしていること。
4. 学協会において、研究発表を行っていること。
5. 学士（工学）の学位を取得していること。

別 表 (2024 年度専攻科入学生より適用)

項 目	単 位 取 得 要 件
A	応用数学系科目，自然科学系科目，情報技術系科目を 10 単位以上取得していること。 対応科目： 応用数学，物理科学，情報処理Ⅱ， 数学応用工学Ⅰ ， 物理応用工学 ， 化学応用工学 ， 高度専門特別講義Ⅱ（応用解析法） ， 数学応用工学Ⅱ ， 生命科学 ， 数値計算法 ， 量子力学 ， CAD/CAM・CAE
B	外国語科目，人文・社会科学系科目，技術者倫理科目を 13 単位以上取得していること。 対応科目： 日本文学，英語Ⅶ，英語Ⅷ，英語Ⅸ，第二外国語Ⅰ，第二外国語Ⅱ，技術者倫理， 科学英語表現法Ⅰ ， 科学英語表現法Ⅱ ， グローバル倫理 ， 経営マネジメント ， 科学総合英語
C	日本語コミュニケーション関連科目を 2 単位以上取得していること。 対応科目： 日本語表現法
D	計画系科目，施工系科目を 4 単位以上取得していること。 対応科目： 建設施工Ⅱ，交通システム工学，社会基盤計画学，測量Ⅲ， 高度専門特別講義Ⅰ（テラメカニクス） ， 工業デザイン論
E	環境系科目のうち 4 単位以上取得していること。 対応科目： 河川工学Ⅰ，環境保全，遺伝子工学概論，河川工学Ⅱ，環境生物工学，環境分析化学， 資源循環工学 ， 再生可能エネルギー工学
F	材料系科目，構造系科目，水理系科目，土質系科目のうち 14 単位以上取得していること。 対応科目： コンクリート構造Ⅰ，コンクリート構造Ⅱ，構造力学Ⅲ，構造力学Ⅳ，水理学Ⅲ，水理学Ⅳ，土質力学Ⅲ，土質力学Ⅳ，鋼構造Ⅰ，鋼構造Ⅱ，防災工学Ⅰ，防災工学Ⅱ， 高度専門特別講義Ⅰ（環境地盤力学） ， 高度専門特別講義Ⅰ（応用水理学） ， 高度専門特別講義Ⅱ（建設材料論）
G	工学総合演習，卒業研究関連科目を 30 単位以上取得していること。 対応科目： 工学総合演習Ⅰ，工学総合演習Ⅱ，卒業研究， 応用研究 ， 特別研究 ， プロジェクトデザイン工学演習Ⅰ ， プロジェクトデザイン工学演習Ⅱ
H	実験実習，設計製図関連科目を 16 単位以上取得していること。 対応科目： 実験実習Ⅳ，設計製図Ⅰ，設計製図Ⅱ， インターンシップ

*プログラムの修了認定は環境都市工学分野会議を経て、専攻科修了認定会議で審議される。

V 学生生活

1. 納付金等

令和6年度の場合

授業料（半期分）	117,300 円
〃（年額）	234,600 円
教科書等	約 20,000 円
後援会会費（年額）	25,000 円
学生会会費（年額）	6,000 円
学位審査手数料	32,000 円

2. 奨学金等

本科と同様に、保険制度、授業料等減免制度、奨学金貸与制度があります。

(1) 保険制度

独立行政法人日本スポーツ振興センター学生災害補償制度は全員加入しています。

(2) 授業料等減免制度、奨学金貸与制度

募集案内等は、本科と同様に掲示等によりお知らせします。

3. 車両通学、飲酒、喫煙

車両通学、飲酒、喫煙についての遵守事項は以下のとおりです。

違反すると本科の学生と同様に処分の対象となります。

(1) 車両通学

専攻科生については、車両通学を認めています。車両通学を希望する者は、校内で行う「交通安全講習会」に出席の上、承認願を学生係に提出し、許可を得なければなりません。

【許可された場合の留意事項】

- ・ 構内駐車許可証を車のダッシュボードの上で外部からも確認できる場所に提示する。
- ・ 校内の指定された場所に置く。
(乗用車は第二普通教室棟および実習工場南側の駐車場、二輪車は図書館棟北側駐輪場及び東通用門北側駐輪場に駐車する)
- ・ 車両に他の学生を同乗させて通学してはならない。
- ・ 許可の有効期限は、当該年度末までとする。
- ・ 重大な交通違反の場合は、処分される。(無免許、飲酒運転等)
- ・ 遵守事項を守らない者は、許可を取り消す。

(2) 飲酒

校内での飲酒は禁止です。また、校外でも本科生と係わりのある飲酒は禁止です。

(3) 喫煙

校内での喫煙は禁止です。

4. 開錠カードキー

平日（22 時以降）及び休日に専攻科棟，専門学科棟を学習・研究のため利用する場合は，カードキーにより入棟できます。（カードキーは，申請により貸与します）。

【留意事項】

- ・貸与期間は，2 年間とし，入棟する校舎等に変更がある場合は，特定の期間内に再度申請書を提出しなければならない。
- ・退学，修了の場合は，教務係に返却すること。また，留学等で長期にわたり登校しない場合も，その期間中は返却すること。
- ・入室中は，学生証を必ず携帯しなければならない。
- ・学内関係者，学外者を問わず他の者に貸与してはならない。
- ・紛失，破損した場合は，速やかに教務係に届け出る。（再発行に伴う費用は本人負担）
- ・学習，研究目的以外で使用してはならない。
- ・入・退棟後は，必ず玄関を閉める。（自動施錠）
- ・作動不良等により開施錠できない場合は，警備員に連絡する。
- ・その他，専攻科長の指示に従う。

5. 就職・進学

就職斡旋における学校推薦については，校長と専攻科長の合議のもとに行われます。

大学院進学のための推薦書等の必要な手続きは，担当の専攻科長補または特別研究指導教員に相談してください。

6. 後援会

後援会は，全学生の保護者で組織するもので，学校教育を理解し，学生の課外活動，福利支援及び教育研究活動の円滑化を目的とするものです。本科生同様，専攻科生の保護者も加入することになっています。

- ・後援会会費 25,000 円（年額）
- ・後援会入会金 10,000 円（他校からの入学の場合）

また，所定の様式を学生係に提出することにより 2 年間で 4 万円を上限に旅費の補助を受けることができます。

7. 学生会

学生会は，「会員の自主的活動により，人間形成を助長し，併せて会の自主的運営により，民主的人格を養う」ことを目的として設けられております。本科生同様，専攻科生も加入することになっています。

- ・学生会会費 6,000 円（年額）
- ・学生会入会金 500 円（他校から入学の場合）

8. 連絡事項の伝達方法

専攻科生への連絡事項は，全て掲示・電子メール（学校が専攻科生全員に貸与するメー

ルアドレス)・連絡網システム(さくら連絡網)・Microsoft Teams で伝達します。毎日見る習慣をつけ、見落とすことのないよう各自で責任をもって対処してください。

また、郵便物等は、図書館ロビーのメールボックスに入れておきますので、当番等により毎日確認に来てください。

9. 公認(欠席・欠課・遅刻・早退)

次に掲げるものに該当する場合の欠席・欠課・遅刻・早退はいずれも出席したものとして扱い、履修時間数に加えます。所定の様式に記入し1週間前までに教務係へ提出してください。なお、事前に提出が間に合わなかった場合は、実施後1週間以内に提出してください。それ以降は受理しません。

- ・就職、進学など卒業後の進路に関すること
- ・学会発表に関すること(本人が発表するものに限る)
- ・非常災害、交通事故による交通機関の遅れに関すること

10. 資格取得奨励支援

本校では、学生の資格取得を支援するため、在学中に対象となる資格を取得した場合、受験料の一部に相当する支援品を支給する「資格取得奨励支援」制度があります。資格取得支援申請の概要は以下のとおりです。

なお、制度の詳細については教務係へ問い合わせてください。

(1) 申請期間

資格を取得した年度中に申請できます(申請期間は別途教務係から通知します)。

申請は、在学中に試験を受験しその資格を取得した年度に限ります。

ただし、年度内に受験するもので、申請期間中に合格(認定)が確認できないものについては、次年度の申請を認めます。

(2) 申請方法

「資格取得奨励支援交付申請書」を記入の上、合格証(認定証)の写しを添えて教務係へ提出してください。

(3) 奨励支援品

「クオカード」を支給します。

(4) 対象資格・支援内容

以下の表のとおりです。

なお、TOEIC については、前回申請したレベルより上位のレベルとなる場合、再申請を認めます。

資格名	レベル	クオカード 支給内容
TOEIC®Listening&ReadingTest 又は TOEIC®Listening&ReadingTest IP	500 点以上	2,000 円
	600 点以上	
	700 点以上	
	800 点以上	
技術士	一次試験	3,000 円
建築士	2 級	5,000 円
	1 級 (合格)	

第6章 専攻科

（設置）

第35条 本校に専攻科を置く。

（教育目的）

第36条 専攻科は、豊かな人間性と国際性を持ち、学修してきた専門分野を深めながら、複合的な素養を身に付け、多様性を涵養し、プロジェクトをデザインできる人材を育成することを目的とする。

（修業年限及び在学期間）

第37条 専攻科の修業年限は、2年とする。ただし、4年を超えて在学することはできない。

2 前項の規定にかかわらず、特別な事由により学生が修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的な教育課程の履修により修了することを申し出たときは、校長は、4年の範囲内で修業年限を超えて履修することを認めることができる。ただし、6年を超えて在学することはできない。

3 前項により計画的な履修を認められた学生（以下「長期履修学生」という。）が、特別な事由により修業年限の変更を希望する場合は、年度を単位として、校長の承認を受けなければならない。

（専攻及び入学定員）

第38条 専攻科の専攻及び入学定員は、次の表のとおりとする。

専攻	入学定員
プロジェクトデザイン工学専攻	40人

（専攻における教育上の目的）

第38条の2 専攻における教育上の目的は、次の表のとおりとする。

専攻	教育上の目的
プロジェクトデザイン工学専攻	学修してきた専門分野を深めながら、複合的な素養を身に付け、多様性を涵養し、プロジェクトをデザインできる人材の育成

（教育課程）

第39条 専攻科の授業科目及びその単位数は、別表第3のとおりとする。

(入学資格)

第40条 専攻科に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- 一 高等専門学校を卒業した者
- 二 短期大学を卒業した者
- 三 専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第132条の規定により大学に編入学することができるもの
- 四 外国において学校教育における14年の課程を修了した者
- 五 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者
- 六 我が国において、外国の短期大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における14年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- 七 その他高等専門学校の専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(入学者の選抜及び入学許可)

第41条 校長は、専攻科の入学志願者について、別に定めるところにより選抜の上、入学を許可する。

(休学期間)

第42条 専攻科学生 of 休学期間は、通算して2年を超えることができない。

2 休学の期間は、第37条に定める修業年限及び在学期間に算入しない。

(修了)

第43条 専攻科の修了は、次の各号に規定する要件をすべて満たした者について認定する。

- 一 専攻科に2年以上在学していること。
 - 二 別表第4に定める単位を修得していること。
- 2 校長は、修了を認定した者に対し、所定の修了証書を授与する。
- 3 第1項第2号に規定する単位の修得については、別に定める。

(準用規定)

第44条 専攻科学生については、第2条から第5条まで、第13条、第21条、第23条、第25条から第27条まで、第29条第1項、第32条第1項、第46条から第54条まで、第56条から第58条までの規定を準用する。この場合において、第29条第1項中「外国の高等学校又は大学」とあるのは「外国の大学」と、第58条第2号中「第24条」とあるのは「第42条」と読み替えるものとする。

(その他)

第45条 専攻科に関する必要な事項は、別に定める。

(略)

(授業料)

第49条 学生は、授業料を前期にあつては5月、後期にあつては10月に納付するものとし、それぞれの期において納付すべき額は、年額の2分の1に相当する額とする。

2 前項の規定にかかわらず、学生の申出があつたときは、前期に係る授業料を納付するときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて納付することができる。

3 入学年度の前期又は前期及び後期に係る授業料については、第1項の規定にかかわらず、入学を許可される者の申出があつたときは、入学を許可されるときに、納付することができる。

第50条 学年の中途において復学、編入学又は再入学（以下「復学等」という。）

した者が、前期又は後期において納付する授業料の額は、授業料の年額12分の1に相当する額に、復学等の日の属する月から次の納付の時期前までの月数を乗じて得た額とし、復学等の日の属する月に納付するものとする。

第51条 学年の途中で退学する者は、退学する日の属する時期が前期であるときは、授業料の年額の2分の1に相当する額の授業料を、退学する日の属する時期が後期であるときは、授業料の年額に相当する額の授業料をそれぞれ納付するものとする。

2 長期履修学生が納付する授業料の年額は、当該在学を認められた期間（以下「長期在学期間」という。）に限り、第46条に規定する授業料の年額に修業年限に相当する年数を乗じて得た額を長期在学期間の年数で除した額とする。

3 長期履修学生が長期在学期間を短縮する場合には、短縮後の期間に応じて前項の規定により算出した授業料の年額に当該者が在学した期間の年数（その期間に1年に満たない端数があるときは、これを切り上げるものとする。以下同じ。）を乗じて得た額から当該者が在学した期間（学年の中途にあつては、当該学年の終了までの期間とする。以下同じ。）に納付すべき授業料の総額を控除した額を、長期在学期間の短縮を認めるときに納付するものとする。ただし、当該短縮期間が修業年限に相当する場合には、第46条に規定する授業料の年額に当該者が在学した期間の年数を乗じて得た額から当該者が在学した期間に納付すべき授業料の総額を控除した額を納付するものとする。

(略)

附 則（令和5年1月5日一部改正）

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

○呉工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、呉工業高等専門学校学則第42条第3項及び第44条の規定に基づき、呉工業高等専門学校専攻科(以下「専攻科」という。)の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し必要な事項を定めるものとする。

(単位の計算方法)

第2条 各授業科目の単位数は、30単位時間(90分授業を2単位時間とする。)の履修を1単位として計算するものとする。

2 前項の規定に関わらず、各授業の単位数は1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習、実験及び実習については、30時間をもって1単位とする。

(履修方法)

第3条 専攻科に開設する授業科目の履修に当たっては、各学期の授業開始日から所定の期日までに受講科目履修届(第1号様式)を提出しなければならない。

(指導教員)

第4条 専攻科の学生は、専攻科の指導教員から授業科目の履修、応用研究及び特別研究の指導を受けるものとする。

2 応用研究及び特別研究の指導については、教務委員会の承認を得て教育研究分野に関連のある専攻科の教員の指導を受けることができるものとする。

(試験)

第5条 専攻科の試験は、定期試験及び追試験(以下「定期試験等」という。)とする。

2 定期試験は、各学期末に実施する。

3 追試験は、次の各号の一に該当するもののうち、追試験受験願(第2号様式)を所定の期日までに提出し、その許可を得た者に対し実施する。

(1) 病気(医師の証明がある場合に限る。)

(2) 忌引

(3) 公認欠席

(4) その他やむを得ない事由があると校長が認めた場合

第6条 試験中の不正行為については、当該科目の評価は不可とし、第5条の適用は認めない。

(成績評価)

第7条 授業科目の評価は、原則として当該科目担当教員が、評価基準に基づいて行うものとする。

第8条 成績の評価は、優・良・可・不可をもって、次の評価区分による。

評価	評点	100～80	79～70	69～60	59～0
	評語	優	良	可	不可
	判定	合格			不合格

2 特別研究は、優・良・可・不可で評定する。

第9条 各授業科目とも授業時数の3分の2以上出席した者に対して評価を行うものとする。ただし、遅刻・早退は欠課1/3回と換算する。

2 授業科目の成績原簿への記載は、評点で行う。ただし、交付証明書への記載は、優・良・可の表記とする。

(単位認定)

第10条 前条第1項に該当する場合において、評点が60点以上又は優・良・可に評価された授業科目については、当該科目を修得したものとして、単位を認定する。

(単位追認試験)

第11条 成績評価において不可となった講義を主とする科目及び講義と演習を合わせた科目について、科目担当教員が認めた場合には、追認試験を実施することができる。

2 追認試験は、科目担当教員が後期成績提出後速やかに行う。

ただし、前期で修了する科目については11月末までに追認試験を行うものとする。

3 追認試験を受けることを希望する学生は、「追認試験受験願(第4号様式)」を科目担当教員へ提出する。

4 追認試験受験願の受理、事前指導、追認試験の実施はすべて科目担当教員の責任において行う。

第12条 追認試験による合格の評点は、60点とする。

(大学又は他の高等専門学校専攻科で履修した単位認定)

第13条 大学又は他の高等専門学校専攻科(以下「大学等」という。)で開設されている授業科目を履修しようとするときは、別に定める「大学等科目履修願」を事前に提出し、教務委員会の議を経て校長の許可を得なければならない。

2 本校において、教育上有益と認めるときは、学生が前項により大学等において履修した授業科目について修得した単位を、専攻科における授業科目の履修とみなし、16単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる。

3 前項に関し必要な事項は、別に定める。

(専攻科の修了認定)

第14条 専攻科の修了の認定は、専攻科修了認定会議において審議の上、校長が行う。ただし、在学2年を超える者については、学年の中途においても、専攻科の修了を認めることができるものとする。

(長期履修学生)

第15条 長期履修学生の年間履修可能単位数は、原則として修了要件単位数を認定された修業年限で除した数の2分の3を上限とする。

2 長期履修学生が、修業年限の変更を希望する場合は、所定の期日までに、修業年限変更願(別紙第3号様式)を提出しなければならない。

附 則 (令和5年3月17日一部改正)

1 この規則は、令和5年4月1日から施行する。

専攻科受講科目履修届

年 月 日

呉工業高等専門学校 専攻科長 殿

プロジェクトデザイン工学専攻 _____ 学年

学生番号 _____

氏 名 _____

_____年度において、下記科目を履修することを届け出ます。

記

区分	授業科目	単位数	履修	備考
必修科目	(科目名1)			
	(科目名2)			
	・			
	・			
	・			
	・			
選択科目				

- 注
1. 履修する科目の「履修」欄に○を記入すること。
 2. 高度専門特別講義Ⅰおよび高度専門特別講義Ⅱは、「備考」欄に科目名を記入すること。
 3. 「再受講科目」は、備考欄に「再受講」と記入すること。

第2号様式（第5条関係）

追 試 験 受 験 願

年 月 日

呉工業高等専門学校長 殿

プロジェクトデザイン工学専攻 第 学年 学生番号

住 所 _____

氏 名 _____

下記事由により、 試験を欠席したので、追試験を御許可願います。
記

事由(詳細に)

受 験 科 目	担 当 教 員	承 認 印	備 考

(注意)

1. 病気の場合は、医師の診断書を添付すること。
2. この届出は、 月 日 ()までに担当教員の承認を経て学生課へ提出すること。

第3号様式（第15条関係）

修 業 年 限 変 更 願

年 月 日

呉工業高等専門学校長 殿

プロジェクトデザイン工学専攻 第 学年 学生番号

氏 名

下記理由により、修業年限の変更を承認願います。

記

修業年限の変更希望期間： 現在 年 → 変更 年
修業年限の変更を希望する理由：
履修計画変更新旧対照表： 別紙のとおり

(注意)

この願いは、1月末までに提出すること。

第4号様式

追 認 試 験 受 験 願

令和 年 月 日

科目担当教員

プロジェクトデザイン工学専攻 学年 番 氏名

下記科目の単位追認試験を受験したいのでご許可くださるようお願いいたします。

科 目 名	単 位

○呉工業高等専門学校専攻科インターンシップの履修に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、呉工業高等専門学校学則第45条の規定に基づき呉工業高等専門学校（以下「本校」という。）の専攻科のインターンシップ（以下「インターンシップ」という。）の履修に関し、必要な事項を定める。

(履修の目的)

第2条 インターンシップは、企業又は研究機関等における就業体験を通じて実践的技術感覚を体得させるとともに、就業体験で得た成果を専攻科特別研究等の学修に生かすことを目的とする。

(インターンシップの授業形態)

第3条 インターンシップの授業は、インターンシップを履修する機関（以下「インターンシップ機関」という。）における実習とする。

(インターンシップ機関)

第4条 インターンシップ機関は、教務委員会の議を経て校長が選定する。

(実施責任者)

第5条 インターンシップを円滑に実施するため、専攻科長を実施責任者とする。

(専攻科長等の業務)

第6条 専攻科長、専攻科長補又は応用研究指導教員（以下「専攻科長等」という。）は、次の業務にあたる。

- (1) インターンシップ機関の候補の指定
- (2) インターンシップの内容及びテーマ等に関する指導・助言
- (3) インターンシップにおける安全管理・就業心得等の事前指導
- (4) インターンシップ中に発生した事故又は異常事態の処置及び報告
- (5) インターンシップ機関との連絡調整
- (6) その他インターンシップの履修に関し必要な業務

(計画・実施)

第7条 インターンシップは、専攻科長等において計画し、校長の許可を経て実施するものとする。

(実地指導)

第8条 専攻科長等は、必要に応じインターンシップを履修する学生に対し、インターンシップ機関において実地指導を行うものとする。

(インターンシップの履修方法)

第9条 インターンシップの履修は、インターンシップ機関の定める諸規則及びインターンシップ機関におけるインターンシップの責任者（以下「インターンシップ責任者」という。）の指示に従って行わなければならない。

(インターンシップの単位数及び履修実時間数)

第10条 インターンシップの単位数は10単位とし、履修実時間数は360時間以上とする。

2 前項の履修実時間数には、報告会（報告書の作成等を含む最大8時間）を含めることができるものとする。

3 1日におけるインターンシップの時間は、インターンシップ機関において定める時間又はインターンシップ責任者の指示する時間とする。

(インターンシップ履修願)

第11条 インターンシップを履修しようとする学生は、インターンシップ履修願（第1号様式）を専攻科長等を経由して、校長に提出しなければならない。

2 校長は、インターンシップ履修願の提出された学生につき、その健康状態などについて調査した上、その履修を許可することができる。

3 インターンシップの期間を変更しようとする学生は、直ちにインターンシップ期間変更願（第2号様式）を専攻科長等を経由して、校長に提出しなければならない。

(インターンシップの履修に関する誓約等)

第12条 前条第2項の規定によるインターンシップの履修を許可された学生（以下「インターンシップ学生」という。）は、誓約書（第3号様式）を、校長を経てインターンシップ機関に提出しなければならない。

2 校長は、インターンシップ機関と本校の間において、インターンシップ実施に関する覚書（第4号様式）を締結する。

3 前項の場合において、インターンシップ実施に関する覚書の様式については、インターンシップ機関と本校が協議の上、適宜の加筆修正等を行い締結することができる。

(傷害保険の加入)

第13条 インターンシップ学生は、インターンシップを開始するにあたり、あらかじめ傷害保険に加入しなければならない。

(インターンシップ終了の報告等)

第14条 インターンシップ学生は、インターンシップ終了後、速やかに、次に掲げる書類を専攻科長等を経て校長に提出しなければならない。

(1) インターンシップ証明書（第5号様式）

(2) インターンシップ終了報告書（第6号様式）又はインターンシップ機関の書式によりインターンシップ機関に提出した報告書の写

(3) インターンシップ日誌

2 インターンシップ学生は、専攻科が行うインターンシップ報告会において、インターンシップの内容及び成果を発表しなければならない。

(成績評価及び単位の認定)

第15条 インターンシップ学生の成績評価は、次によるものとする。ただし、第10条第1項に定めるインターンシップ期間を満了しない場合は、評価は行わない。

(1) 校長は、前条に定める報告書等に基づき内容及び成果について審査を行い、インターンシップの成績を総合的に判断し評価する。

(2) 成績評価の判定は、合格及び不合格の2種とし、合格の場合は、校長がインターンシップの単位を認定する。

(経費)

第16条 インターンシップの履修に要する費用は、原則としてインターンシップ学生の負担とする。

(遵守事項)

第17条 インターンシップ学生は、インターンシップの履修にあたっては本校の学生であることを十分に自覚し、行動しなければならない。

2 この規則に定めるもののほか、遵守事項に関し必要な事項は、インターンシップ機関の定めるところによる。

(事務)

第18条 インターンシップに関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第19条 この規則に定めるもののほか、インターンシップの履修に関し必要な事項は、別に定めるものとする。

附 則（令和6年3月7日一部改正）

この規則は、令和6年4月1日から施行する。

第1号様式（第11条関係）

インターンシップ履修願

年 月 日

呉工業高等専門学校長 殿

下記授業科目を履修したいので、御許可願います。

プロジェクトデザイン工学専攻 第 学年

氏 名 _____

記

履 修 科 目	インターンシップ	単位
指 導 教 員 等 氏 名		
インターンシップ機関名		
インターンシップ期間	年 月 日～ 年 月 日 履修実日数 _____日	
インターンシップのテーマ		
インターンシップの内容		
損 害 保 険 の 加 入	保険の種類（ ） 加入期間 年 月 日～ 年 月 日	
健 康 状 態	良 好・その他（ ）	

（注 1） 氏名欄は、本人が自署してください。また、健康状態欄は、該当する項目を○で囲んでください。

（注 2） インターンシップ期間が変更になった場合は、直ちに「インターンシップ期間変更願」を提出すること。

第2号様式（第11条関係）

インターンシップ期間変更願

年 月 日

呉工業高等専門学校長 殿

下記のとおりインターンシップ期間を変更しますので、御許可願います。

プロジェクトデザイン工学専攻 第 学年
氏 名 _____

記

インターンシップ機関名		
インターンシップ期間	変更前	年 月 日～ 年 月 日 履修実日数 _____日
	変更後	年 月 日～ 年 月 日 履修実日数 _____日
変更理由		

注) インターンシップ期間の変更に伴い、変更後の履修期間が損害保険の保険契約期間を超過する場合、その超過分の期間については、新たに損害保険に加入すること。

第4号様式(第12条関係)

インターンシップ実施に関する覚書

(以下「甲」という)と呉工業高等専門学校(以下「乙」という)は、甲乙間で下記のとおり覚書を締結する。

記

1 インターンシップの条件等

- (1) インターンシップ期間は、 年 月 日()から 年 月 日()までとする。
- (2) 万が一、誓約書に違反する行為があった場合は、直ちにインターンシップを中止することとする。
- (3) 通勤途中の事故・災害については、甲の責に帰さない。
- (4) インターンシップを履修する者は、傷害保険に加入することとする。
- (5) 賠償責任が生じた場合は、国立高等専門学校機構が加入する保険で対応する。

2 協議

本覚書に定めがない事項又は本覚書に疑義が生じた事項については、その都度、甲乙協議の上決定する。

本覚書の締結を証するため、本書2通を作成し、甲乙記名押印のうえ、それぞれ1通を保有するものとする。

年 月 日

甲 所在地
機関名
代表者名

乙 所在地 呉市阿賀南2丁目2番11号
学校名 呉工業高等専門学校
校長名

年 月 日

インターンシップ証明書

呉工業高等専門学校長 殿

インターンシップ機関名

インターンシップ責任者名

印

下記のとおり当機関においてインターンシップを履修したことを証明します。

学 校 等	呉工業高等専門学校				プロジェクトデザイン工学専攻				第	学 年
氏 名					期 間	年 月 日～		年 月 日		
インターンシップ学生の 配属先組織名						(実日数)		(日)		
					実時間数		時間			
インターン シップ内容										
当機関における 履修の評価	専門的知識・技術の吸収力 及び応用力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	コミュニケーション能力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	プレゼンテーション能力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	協 調 性	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	実 習 目 標 の 達 成 度	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
出 欠 状 況	出 勤	欠 勤		遅 刻		早 退				
	日	日		回		回				
そ の 他 特 記 事 項	今後本人を指導するうえでの所見等									

年 月 日

インターンシップ終了報告書

呉工業高等専門学校長 殿

プロジェクトデザイン工学専攻 第 学年

氏 名 _____

下記のとおりインターンシップを終了しましたので報告します。

インターンシップ機関名					
インターンシップ責任者名					
インターンシップを履修した配属先組織名					
インターンシップ期間	インターンシップ先	年 月 日～ 年 月 日 (実日数)		合計	時間
		履修実時間数	時間		
	インターンシップ先以外(学校等)	報告会(報告書の作成等を含む)の時間数	時間		
インターンシップの内容及び成果					

注： 氏名欄は本人が自署してください。

学生課長	課長補佐	学生係長	学生係員

専攻科長

後援会

専攻科生研究発表 旅費支給申請書

令和____年____月____日

後援会会長 殿

プロジェクトデザイン工学専攻____年

氏 名 _____ 印

学生番号 _____

下記のとおり研究発表を実施したので、旅費の支給を申請します。

記

研究会(学会)名	※研究会(学会)の日程・場所・発表者の氏名が記載された要項及びプログラム等のコピーを添付
開催場所	
発表日	令和____年____月____日
発表内容	
備考	

移動月日	出発地 (駅名等)	交通機関等 (JR, 航空機等)	到着地 (駅名等)	宿泊地 (市区町村)	備考
____月____日					
____月____日					
____月____日					
____月____日					

上記の実施を証明します。

指導教員 _____

専攻科長	専攻科長補	指導教員	教務係長	教務係
※1.理由2は不要		※1.理由2は不要		

公認（欠席・欠課・遅刻・早退）許可願

令和 年 月 日

呉工業高等専門学校長 殿

プロジェクトデザイン工学専攻 第 学年

氏 名

下記の理由による欠席等について、公認扱いの許可をお願いいたします。

記

I. 理由（左列の番号に○印を付し、詳細を記入）

1	就職・編入学・進学に関すること (1.選考, 2.説明会, 3.学会発表, 4.入学試験, 5.内定式)						
	会社名または大学名等						
	選考場所の住所						
2	交通機関の事故・天候不良等による遅れ (添付：遅延証明書等)						
	現住所						
	遅延理由						
	乗車駅・停留所						
	下車駅・停留所						
		自宅出発	バス乗車	バス下車	電車乗車	電車下車	学校到着
	平素の通学時間	:	:	:	:	:	:
遅延日	:	:	:	:	:	:	
3	その他（詳細を以下に記入）						

II. 期間（該当時限に○印を付すこと。I.理由1の場合は備考欄に選考等の開始・終了時刻を記入）

期 日 (曜)	時 限				備 考
	1	2	3	4	
月 日 ()					
月 日 ()					
月 日 ()					
月 日 ()					

- 注1. I.理由1の場合,旅行日を含み,それに必要な最小限度の期間とする。尚,健康診断書を保健所等公的医療機関で作成しなければならない場合は,必要最小限の範囲で欠課を認める。
- 注2. I.理由1の場合,専攻科長補の認印(理由が学会発表の場合は指導教員の認印)を得て,1週間前までに教務係へ提出すること。事前に提出が間に合わなかった場合は,実施後1週間以内に提出すること。それ以降は受理しない。
- 注3. I.理由2の場合,可能な限り遅延証明書等を添付して事後1週間以内に教務係へ提出すること。それ以降は受理しない。なお,自然渋滞によって交通機関が遅れた場合の公認は認められない。
- 注4. 取り扱いについては,結果が不許可の場合は教務係から連絡を行う。

専攻科長	専攻科長補	学生課長	教務係長	教務係

専攻科研究発表届

年 月 日

プロジェクトデザイン工学専攻 年

氏 名 _____

特別（応用）研究指導教員

氏 名 _____

著者名	
講演者名	
題目	
雑誌名・講演会名	
巻号	
最初頁－最後頁	
発表年月日	
発表場所	

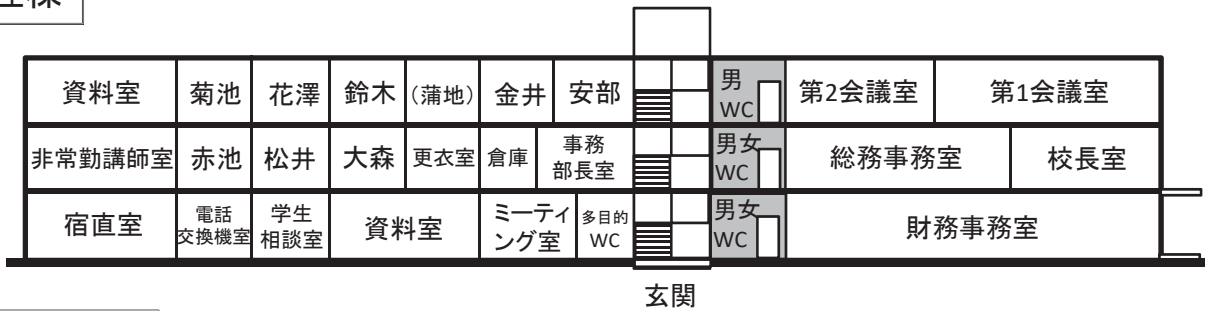
（添付書類）講演会の開催日，開催場所が明記された講演プログラム等のコピー
講演論文のコピー

（提出方法）本用紙に必要事項を記入の上，必要書類を添えて教務係まで提出。
提出された原本を特別研究のエビデンスとして保存。

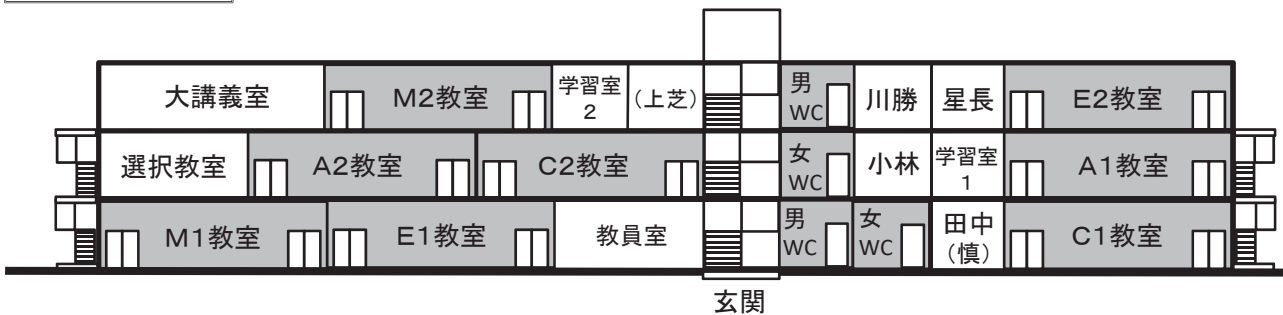
※在学中に最低1件提出すること

教室・教員室配置図

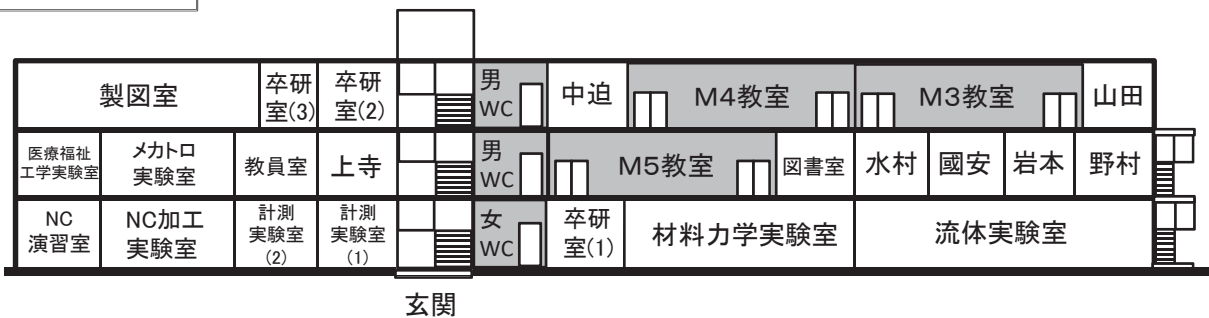
管理棟



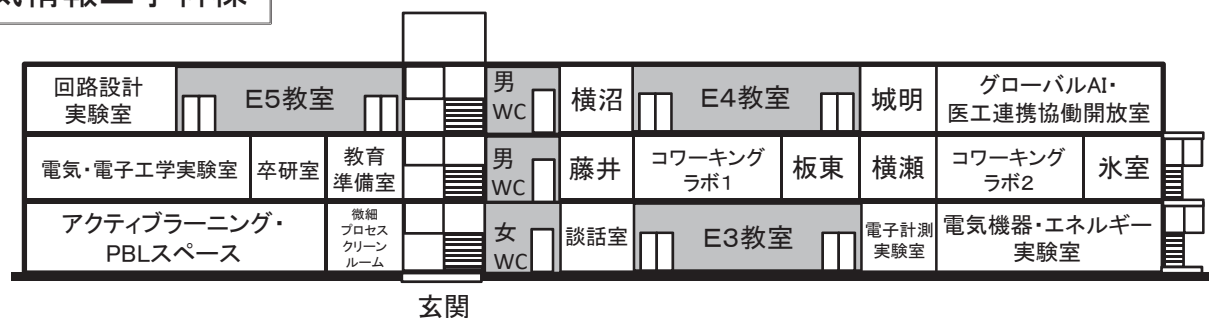
普通教室棟



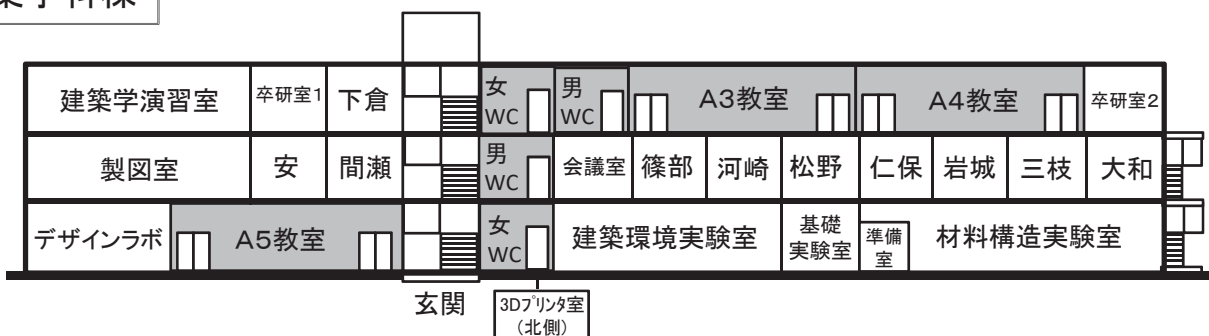
機械工学科棟



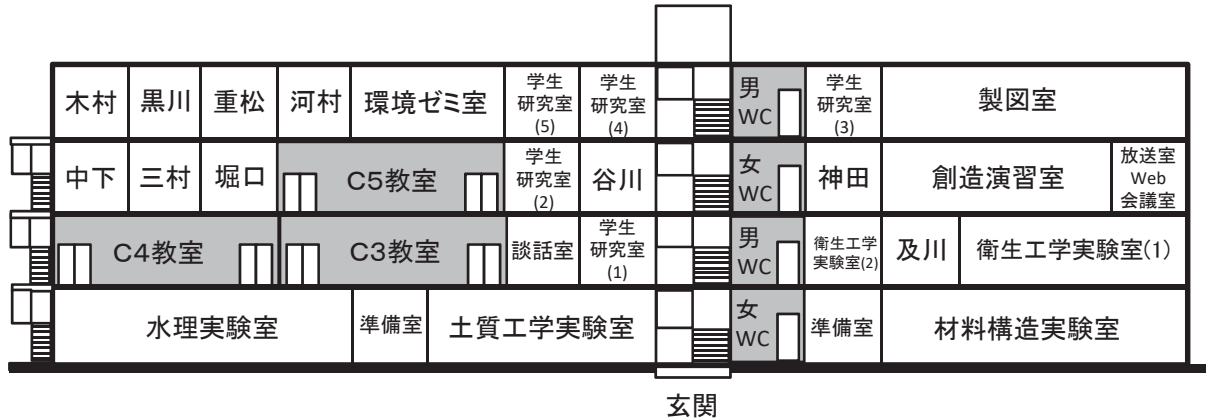
電気情報工学科棟



建築学科棟



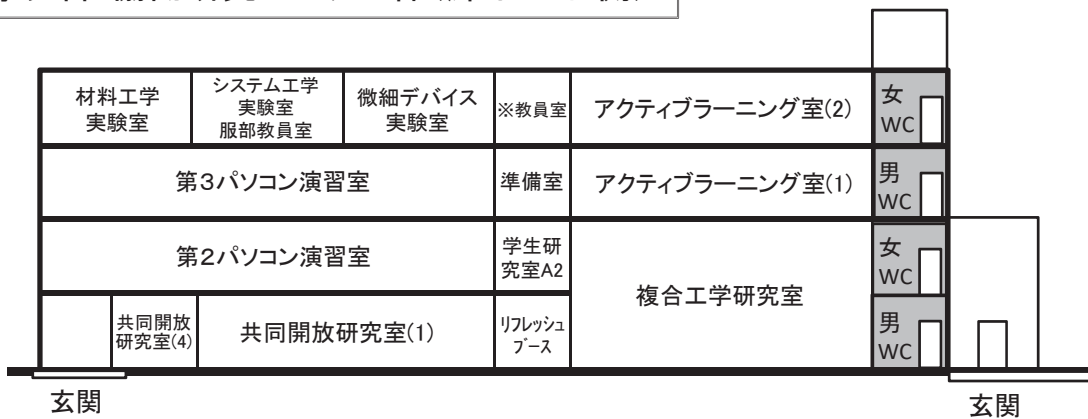
環境都市工学科棟



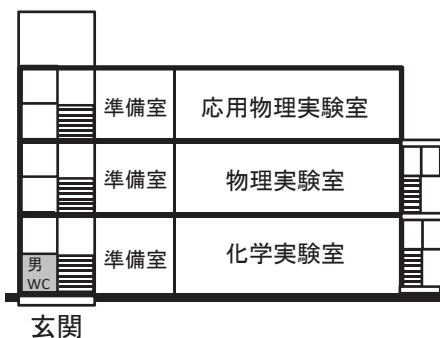
専攻科・協働研究センター棟(廊下の南側)



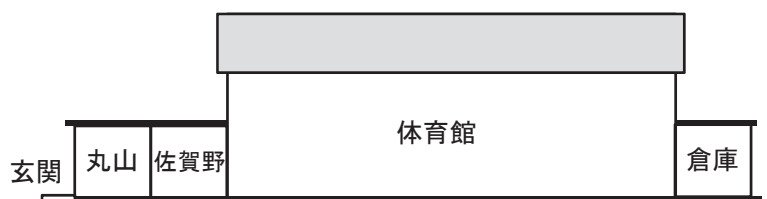
専攻科・協働研究センター棟(廊下の北側)



第2普通教室棟

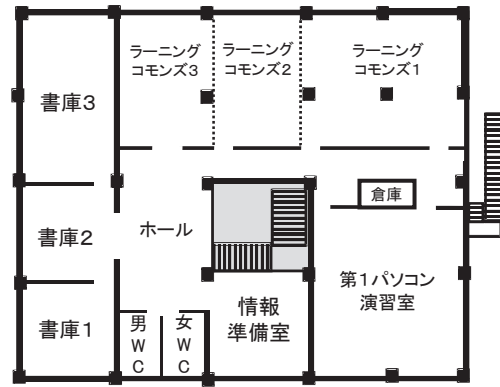


第1体育館の北側断面

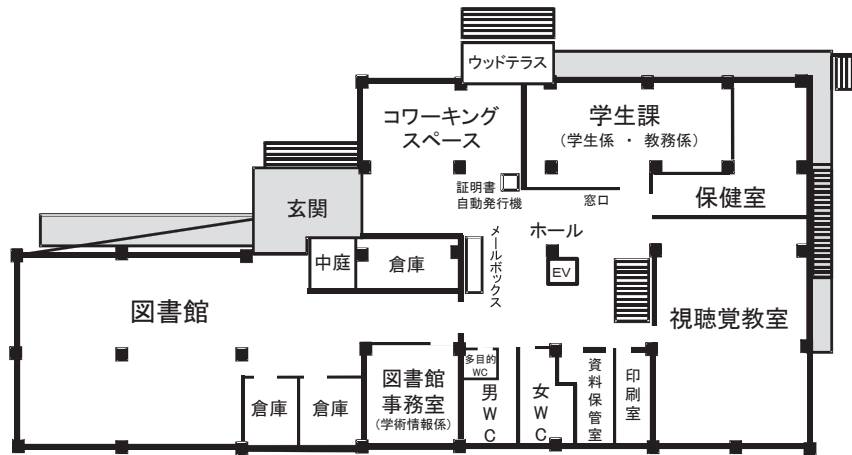


図書館棟

- 1階: 学生課
- 1階: 保健室
- 1階: 図書館
- 2階: 第1パソコン演習室



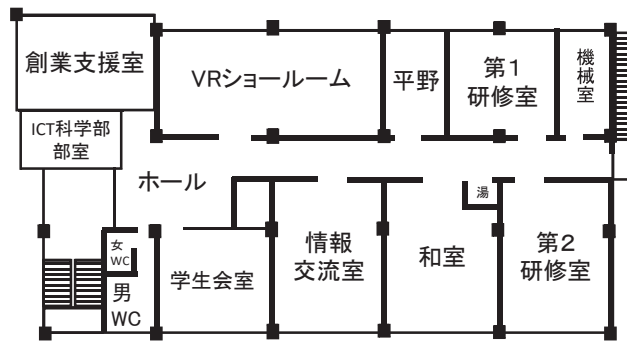
2階



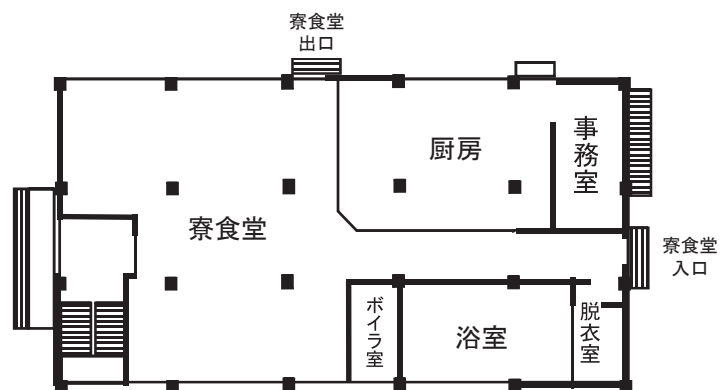
1階

静心館

- 1階: 寮食堂
- 2階: 福利厚生施設



2階



1階

付録

付録1 教員・メールアドレス一覧 ※メールアドレスは@kure-nct.ac.jp を付けてください

学科	職名	氏名	メールアドレス	学科	職名	氏名	メールアドレス
人文社会科学系分野	教授	佐賀野 健	sagano	自然科学系分野	教授	赤池 祐次	akaike
	准教授	大森 誠	m-omori		教授	川勝 望	kawakatsu
	准教授	小倉 亜紗美	a-ogura		教授	田中 慎一	s-tanaka
	准教授	菊池 達也	t-kikuchi		教授	林 和彦	hayashi
	准教授	丸山 啓史	maruyama		准教授	小林 正和	m-kobayasi
	講師	花澤 哲文	t-hanazawa		助教	安部 牧人	m-abe
	助教	形山 羽奈	h-katayama		助教	金井 和貴	k-kanai
	助教	鈴木 浩輔	k-suzuki		助教	星長 翔太	s-hoshinaga
機械工学分野	教授	岩本 英久	iwamoto	電気情報工学分野	教授	井上 浩孝	hiro
	教授	中迫 正一	nakasako		教授	藤井 敏則	t_fujii
	教授	野村 高広	nomura		教授	横沼 実雄	yokonuma
	教授	水村 正昭	m-mizumura		准教授	服部 佑哉	y-hattori
	准教授	上寺 哲也	uedera		准教授	板東 能生	bando
	准教授	國安 美子	kuniyasu		准教授	氷室 貴大	t-himuro
	准教授	野波 諒太	r-nonami		准教授	平野 旭	hirano
	准教授	山田 祐士	yamada		准教授	横瀬 義雄	yokose
環境都市工学分野	准教授	吉川 祐樹	yosikawa	助教	城明 舜磨	s-jomyo	
	教授	及川 栄作	oikawa	建築学分野	教授	篠部 裕	shinobe
	教授	河村 進一	s-kawamura		教授	仁保 裕	niho
	教授	神田 佑亮	y-kanda		教授	間瀬 実郎	mase
	教授	黒川 岳司	kurokawa		教授	松野 一成	matuno
	教授	重松 尚久	sigematu		教授	大和 義昭	yamato
	教授	堀口 至	horiguti		准教授	安 箱敏	ahn
	准教授	木村 善一郎	z-kimura		准教授	岩城 考信	y-iwaki
准教授	谷川 大輔	tanikawa	准教授		下倉 玲子	shimokura	
准教授	中下 慎也	s-nakashita	准教授	三枝 玄希	g-mieda		
准教授	三村 陽一	mimura	助教	河崎 啓太	k-kawasaki		

◆技術センター

職名	氏名
技術長	池元 浩一郎
技術専門員	田村 忠士
技術専門員	加藤 省二
技術専門職員	牛坂 淳二
技術専門職員	深田 朋洋
技術専門職員	山田 千鶴
技術職員	森田 明香
技術職員	生田 悠介
技術職員	福田 竜也
技術職員	吉田 玄德

専攻科授業時間割表

時 限	開始時刻	終了時刻	休 憩
1	8 : 5 0	1 0 : 2 0	1 0分
2	1 0 : 3 0	1 2 : 0 0	5 0分
3	1 2 : 5 0	1 4 : 2 0	1 0分
4	1 4 : 3 0	1 6 : 0 0	

※新型コロナウイルスの影響で時間が変更となる場合がありますので、ご注意ください。

◆裏表紙のロゴマークについて

呉高専の頭文字Kを人の形にデザイン化したもので、人が上方に手を伸ばし、足を踏み出した格好である。人の形を使ったのは、親しみやすく、動きのある様子は、活発で明るい学生をイメージしている。伸ばした手は、右肩上がりで学校の飛躍発展を力強く表している。

円は、学校・社会・日本など様々な意味を持ち、そこから一步踏み出して、校外、地域社会、国際的な場において自分の手で、自分の未来・夢をつかみとる実行力のある学生を表現している。

(デザイン：平成13年度入学 建築学科 清川 直子)

